

CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows テンプレートガイド

第3版

2017年4月

日本電気株式会社

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2015.03	新規作成
2.0	2016.03	バージョンアップに伴い改版
3.0	2017.04	バージョンアップに伴い改版

はしがき

(1) マニュアルについて

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows テンプレートガイド」は、 ProcessSaver によるプロセス/サービス監視ソリューションを支援するための導入事例を ご紹介します。

本資料でご紹介する事例は、監視対象となる製品の設定ファイルの設定・運用スタイル・ バージョンの差異、さらにバッチなどによって、監視手順に変更が発生する場合があります。 実際に導入する場合は、十分な検証と動作確認の実施をお願いします。

はしがき

(2) 商標および著作権について

- Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation、米国および その他の国における商標または登録商標です。
- Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
- Windows Server 2012 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 です。
- Windows Server 2016 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2016 です。
- IIS の正式名称は、Internet Information Service です。
- Apache、Tomcat は、Apache Software Foundation の商標または登録商標です。
- Tomcat の正式名称は、Apache Tomcat です。
- WebOTXは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。
- Oracle は、ORACLE Corporation の商標または登録商標です。
- Oracle の正式名称は、Oracle Database です。
- BEA は、BEA システムズの商標または登録商標です。
- WebLogic の正式名称は、Oracle WebLogic Server です。
- Microsoft SOL Server は、Microsoftの商標または登録商標です。
- その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

なお、本書ではR、TM マークを明記しておりません。



1. はじめに	P.13
2. Tomcat 6 の監視事例	P.17
2-1. 概要	P.17
2-2. Pfile	P.18
2-3. 再起動スクリプト	P.19
3. Tomcat 7 の監視事例	P.20
3-1. 概要	P.20
3-2. Pfile	P.21
3-3. 再起動スクリプト	P.22
4. WebOTX の監視事例	P.23
4-1. 概要	P.23
4-2. Pfile	P.24
4-3. 再起動スクリプト	P.25
5. WebLogic 11g の監視事例	P.26
5-1. 概要	P.26
5-2. Pfile	P.27
5-3. 再起動スクリプト	P.28

6. WebLogic 12c の監視事例	P.29
6-1. 概要	P.29
6-2. Pfile	P.30
6-3. 再起動スクリプト	P.31
7. Oracle 10g の監視事例	P.32
7-1. システム一意	P.33
7-1-1. 概要	P.33
7-1-2. Pfile	P.35
7-1-3. 再起動スクリプト	P.36
7-2. インスタンス	P.37
7-2-1. 概要	P.37
7-2-2. Pfile	P.39
7-2-3. 再起動スクリプト	P.40
8. Oracle 11g の監視事例	P.44
8-1. システム一意	P.45
8-1-1. 概要	P.45
8-1-2. Pfile	P.47
8-1-3. 再起動スクリプト	P.48
8-2. インスタンス	P.49
8-2-1. 概要	P.51
8-2-3. 再起動スクリプト	P.51

9. Oracle 12c の監視事例	P.53
9-1. システム一意	P.54
9-1-1. 概要	P.54
9-1-2. Pfile	P.56
9-1-3. 再起動スクリプト	P.57
9-2. インスタンス	P.58
9-2-1. 概要	P.58
9-2-2. Pfile	P.60
9-2-3. 再起動スクリプト	P.61
10. IIS6.0 の監視事例	P.62
10-1. 概要	P.62
10-2. Pfile	P.72
10-3. 再起動スクリプト	P.74
10-4. Pfile 書き換え	P.81
10-4-1. IIS の状態確認	P.83
10-4-2. Pfile の読み込み	P.85
10-4-3. 監視しないサービスの削除	P.86
10-4-4. 監視サービスの並び替え	P.87
10-4-5. Pfile の保存	P.89

11. IIS7.0 の監視事例	P.90
11-1. 概要	P.90
11-2. Pfile	P.101
11-3. 再起動スクリプト	P.103
11-4. Pfile 書き換え	P.105
11-4-1. Pfile の直接編集	P.107
11-4-2. Pfile の読み込み	P.108
11-4-3. 監視しないサービスの削除	P.109
11-4-4. Pfile の保存	P.110
12. IIS7.5 の監視事例	P.111
12-1. 概要	P.111
12-2. Pfile	P.118
12-3. 再起動スクリプト	P.120
12-4. Pfile 書き換え	P.121
12-4-1. Pfile の直接編集	P.123
12-4-2. Pfile の読み込み	P.124
12-4-3. 監視しないサービスの削除	P.125
12-4-4. Pfile の保存	P.126

13. IIS8.0 の監視事例	P.127
13-1. 概要	P.127
13-2. Pfile	P.134
13-3. 再起動スクリプト	P.136
13-4. Pfile 書き換え	P.137
13-4-1. Pfile の直接編集	P.139
13-4-2. Pfile の読み込み	P.140
13-4-3. 監視しないサービスの削除	P.141
13-4-4. Pfile の保存	P.142

14. Microsoft SQL Server 2008 の監視事例	P.143
14-1. システム一意	P.145
14-1-1. 概要	P.145
14-1-2. Pfile	P.148
14-1-3. 再起動スクリプト	P.149
14-2. インスタンス	P.150
14-2-1. 概要	P.150
14-2-2. Pfile	P.155
14-2-3. 再起動スクリプト	P.158
14-3. Pfile 書き換え	P.162
14-3-1. Pfile の直接編集	P.164
14-3-2. Pfile の読み込み	P.165
14-3-3. 監視しないサービスの削除	P.166
14-3-4. Pfile の保存	P.167

15. Microsoft SQL Server 2008 R2 の監視事例	P.168
15-1. システム一意	P.170
15-1-1. 概要	P.170
15-1-2. Pfile	P.173
15-1-3. 再起動スクリプト	P.174
15-2. インスタンス	P.175
15-2-1. 概要	P.175
15-2-2. Pfile	P.180
15-2-3. 再起動スクリプト	P.183
15-3. Pfile 書き換え	P.186
15-3-1. Pfile の直接編集	P.188
15-3-2. Pfile の読み込み	P.189
15-3-3. 監視しないサービスの削除	P.190
15-3-4. Pfile の保存	P.191

16. Microsoft SQL Server 2012 の監視事例	P.192
16-1. システム一意	P.194
16-1-1. 概要	P.194
16-1-2. Pfile	P.198
16-1-3. 再起動スクリプト	P.199
16-2. インスタンス	P.201
16-2-1. 概要	P.201
16-2-2. Pfile	P.206
16-2-3. 再起動スクリプト	P.209
16-3. Pfile 書き換え	P.212
16-3-1. Pfile の直接編集	P.214
16-3-2. Pfile の読み込み	P.215
16-3-3. 監視しないサービスの削除	P.216
16-3-4. Pfile の保存	P.217

17. StarOffice の監視事例	P.218
17-1. 概要	P.218
17-2. Pfile	P.220
17-3. 再起動スクリプト	P.222
17-4. Pfile 書き換え	P.228
17-4-1. Pfile の直接編集	P.229
17-4-2. Pfile の読み込み	P.230
17-4-3. 監視しないサービスの削除	P.231
17-4-4. Pfile の保存	P.232
18. IIS のストール監視事例	P.233
18-1. 概要	P.233
18-2. Pfile	P.235
18-3. 再起動スクリプト	P.237
18-4. ストール監視スクリプトの設定	P.241
19. Microsoft SQL Server のストール監視事例	P.246
19-1. 概要	P.246
19-2. Pfile	P.248
19-3. 再起動スクリプト	P.250
19-4. ストール監視スクリプトの設定	P.254

1. はじめに

表記規則

本書での表記規則に関しては、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
ſĵ	画面名の前後	『Create Pfile』 は、Pfile を作成する画面です。
Lì	参照するマニュアル名の前後 参照する章および章のタイトル名の前後	「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows ユーザーズガイド (コンソール編)」 を参照してください。
IJ	環境によって読み換えるファイル名および フォルダ名の前後	【HOME_NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。
< >	ファイル名およびフォルダ名の前後	<c:\program files\processsaver\proces\processsaver\proces<="" td=""></c:\program>
[]	項目名の前後・タブ名の前後	[Process/ServiceName] を変更してください。
斜体、太字	ボタン名・チェックボックス名	Read を押してください。

1. (続き)

用語の定義

本書での用語に関しては、下記のように定義します。

用語	説明
ProcessSaver コンソール	ProcessSaver の運用管理のための GUI(グラフィカルユーザーインタフェース)画面のことを、 ProcessSaver コンソールと表記します。
Pfile	プロセス/サービスの監視定義情報を記述する設定ファイルのことを、Pfile と表記します。
Pcheck	Pfile で指定された定義情報に基づき、プロセス/サービス消滅監視および再開を行うプロセスのことを、Pcheck と表記します。
再起動スクリプト	監視対象プロセス/サービスの消滅を検知した場合に、監視対象プロセス/サービスを自動的 に再起動するためのコマンド処理を記述したファイルのことを、再起動スクリプトと表記します。
PcheckRunList	OS 起動時に自動的に監視を開始するための Pcheck の起動リストです。 監視を行う Pfile の一覧が記述されています。
インストールフォルダ	ProcessSaver をインストールしたフォルダです。 本資料では、 <c:¥program files=""> にインストールしたこととします。</c:¥program>
Pcheck 自動起動	OS 起動時に ProcessSaver サービスから PcheckRunList にしたがって Pcheck を 起動することです。
Pcheck 手動起動	OS 起動後に ProcessSaver コンソールや コマンドから Pcheck を起動することです。

1. (続き)

参考ドキュメント

Pcheck 自動起動の設定方法については、「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows ユーザーズガイド(コンソール編)」を参照してください。

Pcheck の起動方法については、「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows ユーザーズガイド(コンソール編)」 および 「 CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows ユーザーズガイド(コマンド編)」を参照してください。

作業を始める前に

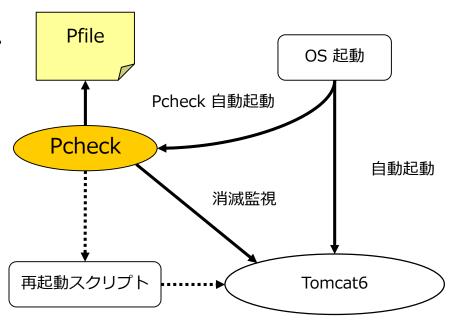
テンプレートの各 Pfile の使い方については、テンプレート集に同梱の <Readme.txt> を 参照してください。

2. Tomcat 6 の監視事例

2-1. 概要

本事例は Tomcat 6.0.18 を使用しています。

タイプ	Service	
表示名	Apache Tomcat	
サービス名	Tomcat6	
常駐プロセス	Tomcat6.exe	
スタートアップ	自動	
回復機能	何もしない	
依存関係	無し	



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

2-2. Pfile

Pfile <sample_tomcat6>

PARAM

MsgCheckInterval 5 MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\tomcat6.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;

ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

Tomcat6, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart_tomcat6.bat", 86400, 3, Continue, Service}

2. (続き)

2-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト < restart_tomcat6.bat >

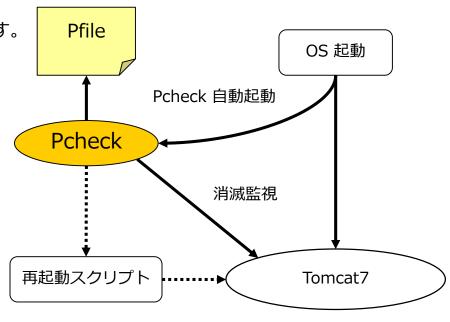
@echo off rem Tomcat 6.0.18 の再起動スクリプトです sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。 sc start tomcat6 exit

3. Tomcat 7 の監視事例

3-1. 概要

・本事例は Tomcat 7.0.42 を使用しています。

タイプ	Service	
表示名	Apache Tomcat 7.0 Tomcat7	
サービス名	Tomcat7	
常駐プロセス	Tomcat7.exe	
スタートアップ	自動	
回復機能	何もしない	
依存関係	無し	



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

3-2. Pfile

Pfile <sample_tomcat7>

PARAM

MsgCheckInterval MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\tomcat7.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag; ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

Tomcat7, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart_tomcat7.bat", 86400, 3, Continue, Service

3-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト < restart_tomcat7.bat >

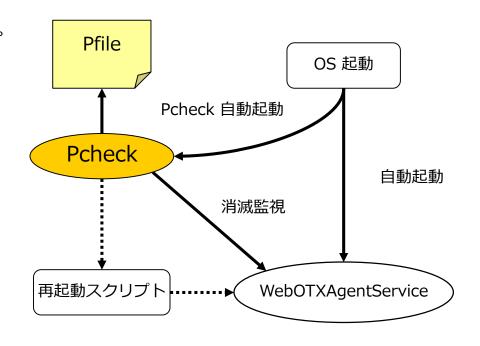
@echo off rem Tomcat 7.0.42 の再起動スクリプトです sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。 sc start tomcat7 exit

4. WebOTX の監視事例

4-1. 概要

・本事例は WebOTX 9.11 を使用しています。

タイプ	Service	
表示名	WebOTX AS Agent Service	
サービス名	WebOTXAgentService	
常駐プロセス	WOAgentSvc.exe	
スタートアップ	自動	
回復機能	何もしない	
依存関係	無し	



監視手順

- · OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開
- ※ WebOTX 8.21 と WebOTX 9.11 の構成は同じため、本テンプレートを WebOTX 8.21 でも 同様に使用することができます。

4-2. Pfile

Pfile <sample_webotxas>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval
                             5
MonitorInterval
                            10
DumpFileName
                            "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\webotxas.dmp"
UpMessageReduceMode
                              disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; Grou
pTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
WebOTXAgentService, "C: ¥Program
Files\(\forall HA\(\forall ProcessSaver\(\forall scriptfile\(\forall restart\) webotxas.bat",86400,3,Continue,Service
```

4-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト < restart_webotxas.bat >

```
@echo off
rem WebOTX の再起動スクリプトです
                             sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start WebOTXAgentService
exit
```

5. WebLogic 11g の監視事例

5-1. 概要

本事例は WebLogic 11g (10.3) を使用しています。 WebLogic のインストール Dir は <C:\\$bea> です。

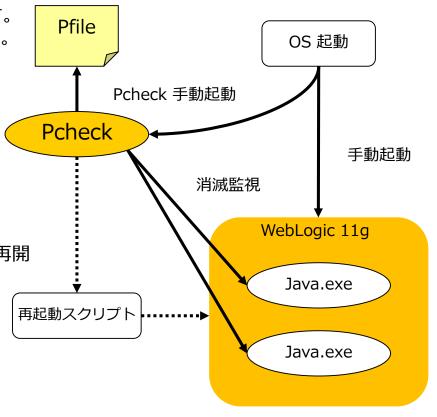
タイプ	Process
常駐プロセス	Java.exe

監視手順

- ・ OS 起動後、手動にて起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

※ 注意事項

手動起動を前提に作成しています。 サービスに登録している場合は、 別途作成してください。



5-2. Pfile

Pfile <sample weblogic11g>

PARAM ##### MsqCheckInterval MonitorInterval 10 依存関係をもたせるために "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\weblogic11g.dmp" DumpFileName GroupTag を指定して UpMessageReduceMode disable グループ監視を行います。 ##### PENT ##### ## Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; Group Tag; ClearCm d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch java_exe,"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart weblogic12c.bat",86400,3,Continue,Process;GroupTag=web) IncludeStrings=-jrockit -Xdebug -Xnoagent -Xrunjdwp:transport=dt_socket;RestartWaitTime=60;PnameFullMarch_disable java-exe, "C: *Program Files*HA*ProcessSaver*scriptfile*restart_weblogic12c.bat",86400,3,Continue,Process;GroupTag=web IncludeStrings=con_pointbase.net.netServer /noconsole /port:9093 /d:0 /pointbase_ini-C.*bea*WONSH~1.3\samples\domains\workshop\pointbase.ini;RestartWaitTime=60;PnameFullMatch=disabl ほかの Java プロセスと誤認しないように IncludeStrings を指定して Java プロセスを 識別します。

5-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト < restart weblogic11g.bat>

@echo off rem WebLogic11g の再起動スクリプトです rem WebLogic の停止コマンドを実行します start call "C:\footnote{\text{bea}\footnote{\text{workshop}\footnote{\text{bin}\footnote{\text{stop}WebLogic.cmd}"}} 停止コマンドが終了するまで起動コマンドを rem 任意の秒数の間待ちます(指定範囲:1~600) 待ち合わせます。 "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\bin\PSSleep.exe" 30 環境によって待ち合わせ時間が異なりますので 調整してください。 rem WebLogic の起動コマンドを実行します start call "C:\u00e4bea\u00e4workshop 10.3\u00e4samples\u00e4domains\u00e4workshop\u00e4startWebLogic.cmd" exit

6. WebLogic 12c の監視事例

6-1. 概要

・本事例は WebLogic 12c (12.1.2) を使用しています。 WebLogic のインストール Dir は <C:\U00a4Oracle\u00a4Middleware\u00a4Oracle_Home> です。

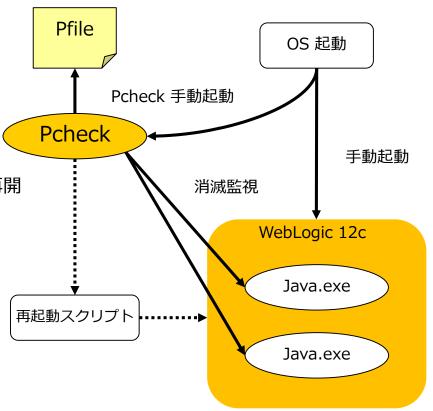
タイプ	Process
常駐プロセス	Java.exe

監視手順

- ・ OS 起動後、手動にて起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

※ 注意事項

手動起動を前提に作成しています。 サービスに登録している場合は、 別途作成してください。



6-2. Pfile

Pfile <sample weblogic12c>

PARAM

MsqCheckInterval MonitorInterval 10

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\weblogic12c.dmp" DumpFileName

UpMessageReduceMode disable

PENT

##

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GrountTag; ClearCm d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

java exe, "C: *Program Files * HA * Process Saver * script file * restart weblogic 12 c. bat", 86400, 3, Continue, Process Group tag=web; IncludeStrings=-

Djava.security.policy=C:\U00e4Oracle\U00e4MIDDLE~1\u00e4ORACLE~1\u00e4wlserver\u00e4server\u00e4lib\u00e4weblogic.policy;RestartWaitTime=60\u00e4PnameFullM atch=disable

iava.exe, "C: YProgram Files YHA YProcess Saver Yscriptfile Yrestart_weblogic 12c.bat", 86400, 3, Continue, Process Group Tag=web; IncludeStrings=-classpath

"C:\\Oracle\YMIDDLE~1\\Oracle\C=1\\Wiserver\Common\U00e4derby/lib/derby.jar;C:\\Oracle\YMIDDLE~1\\Oracle\L21\\Wiserver\U00e4commo n\u00e4derby/lib/derbynet.jar;RestartWaitTime=60;PnameFullMatch=disable

> ほかの Java プロセスと誤認しないように IncludeStrings を指定して Java プロセスを識別します。

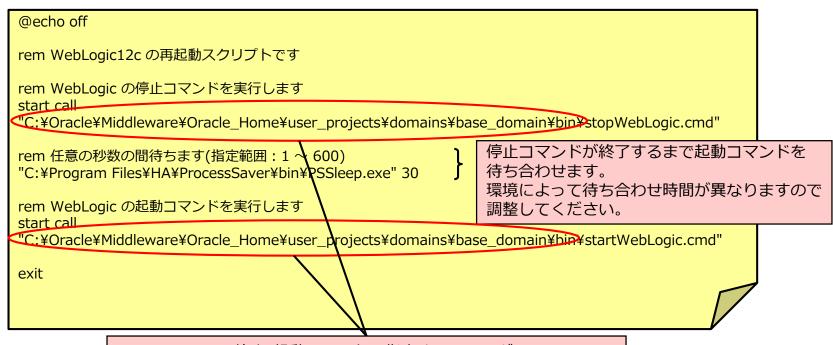
※ IncludeStrings に指定する値は、環境により適宜修正してください。

依存関係をもたせるために GroupTag を指定して

グループ監視を行います。

6-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト < restart weblogic 12c.bat>



※ WebLogic の停止/起動コマンドに指定するフォルダは、 環境により適宜修正してください。

7. Oracle 10g の監視事例

- ・本事例は Oracle 10g R2 を使用しています。 Oracle にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。
- (1)システム一意

Oracle をインストールした際に登録されるサービスです。 Oracle 一意のサービスのため、複数登録されません。 【HOME NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。

- Oracle [HOME NAME] iSQL*Plus (OracleOraDb10g home1iSQL*Plus)
- Oracle [HOME NAME] TNSListener (OracleOraDb10g home1TNSListener)

*本書では、【HOME NAME】(ホーム名)を "OraDb10g home1" とします。

(2) インスタンス

DB を作成した際に登録されるサービスです。 DB 数分サービスが登録されます。 【SID】は、Oracle のデータベース作成時に指定するデータベース名です。

- · OracleDBConsole【SID 名】 (OracleDBConsoleorcl)
- OracleService 【SID 名】 (OracleServiceORCL)

*本書では、【SID 名】(データベース名)を "orcl" とします。

7. (続き)

7-1. システム一意

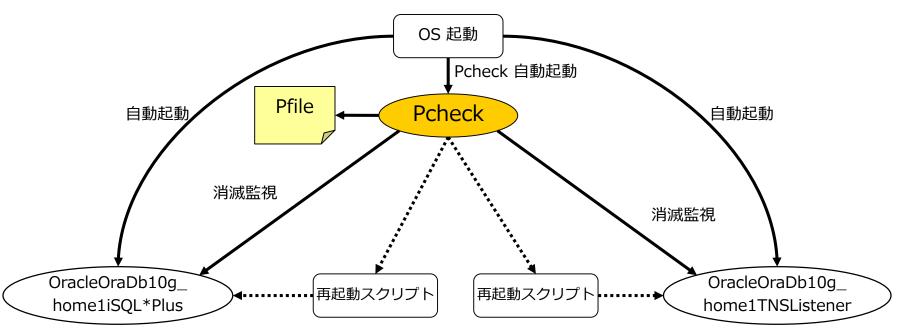
7-1-1. 概要

- OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus
- OracleOraDb10g_home1TNSListener

タイプ	Service	Service
表示名	OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus	OracleOraDb10g_home1TNSListener
サービス名	OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus	OracleOraDb10g_home1TNSListener
常駐プロセス	isqlplussvc.exe	TNSLSNR.EXE
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

7. (続き)

7-1-1. (続き)



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

7-1-2. Pfile

Pfile <sample oracle10g system>

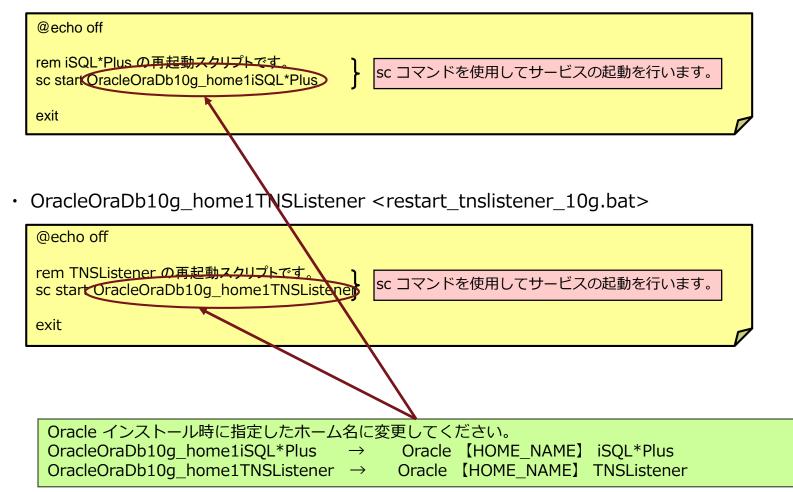
```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                              5
MonitorInterval
                             10
DumpFileName
                             "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\oracle10g_system.dmp"
UpMessageReduceMode
                               disable
##### PENT #####
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; Group
Tag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleOraDb10q home1iSQL*Plus,"C:\(\text{ProgramFiles}\)\(\text{HA}\(\text{ProcessSaver}\)\(\text{scriptfile}\)\(\text{restart sqlplus 10q.bat",86400,3,}\)
Continue, Service
OracleOraDb10g home1TNSListener,"C:\text{YProgramFilesYHAYProcessSaverYscriptfileYrestart tnslistener 10g.bat",864
00,3, Continue, Service
```

```
Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDb10g home1iSQL*Plus
                            → Oracle 【HOME NAME】 iSQL*Plus
OracleOraDb10g home1TNSListener →
                                 Oracle [HOME NAME] TNSListener
```



7-1-3. 再起動スクリプト

OracleOraDb10g home1iSQL*Plus < restart sqlplus 10g.bat>



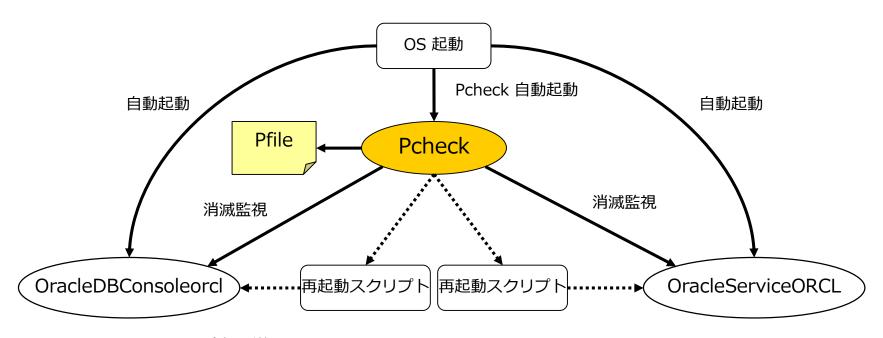
7-2. インスタンス

7-2-1. 概要

- OracleDBConsoleorcl
- OracleServiceORCL

タイプ	Service	Service
表示名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
サービス名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
常駐プロセス	nmesrvc.exe emagent.exe perl.exe java.exe cmd.exe	oracle.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

7-2-1. (続き)



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

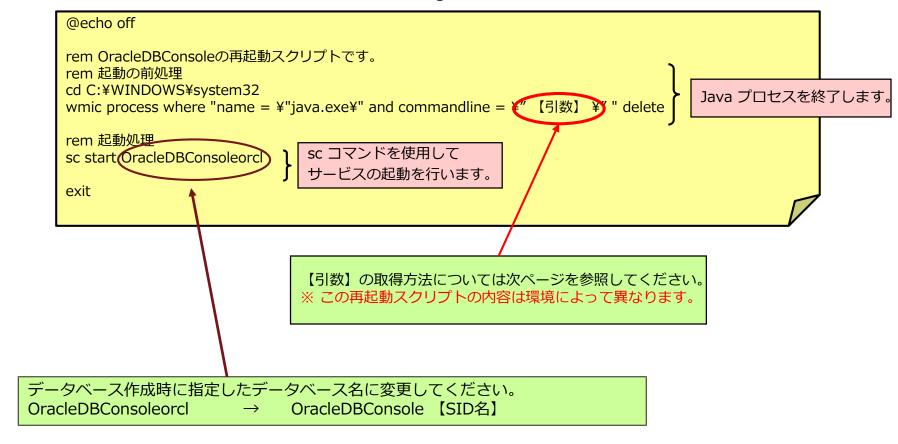
7-2-2. Pfile

Pfile <sample oracle10g instance>

```
##### PARAM #####
MsaCheckInterval
                      5
MonitorInterval
                      10
DumpFileName
                      "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\oracle10g instance.dmp"
UpMessageReduceMode
                       disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupT
ag, ClearCmd; IncludeStrings; RestartWaitTime; RestartTimeOut; PnameFullMatch
Continue, Service; Restart Wait Time = 600
OracleServiceORCL," C:\Program
Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart_oracle10gsvc.bat",86400,3,Continue,Service
データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleDBConsoleorcl
                     → OracleDBConsole 【SID名】
OracleServiceORCL
                           OracleService 【SID名】
```

7-2-3. 再起動スクリプト

OracleDBConsoleorcl <restart_oracle10gdbconsole_base.bat>



7-2-3. (続き)

OracleDBConsoleorcl

wmic process where "name = \forall"java.exe\forall"" get commandline の実行結果にて 下記の引数が取得されます。

【インストール Dir】¥idk/bin/iava -server -Xmx【全体の最大ヒープサイズ】 -XX:MaxPermSize= 【Permanent 領域Max サイズ】 -XX:MinHeapFreeRatio=【Gorbage Collector 後に拡張されるまでに 消費されるヒープ比率】 -XX:MaxHeapFreeRatio=【Gorbage Collector 後にシュリンクされるまでに消 費されるヒープ比率】 -DORACLE HOME=【インストール Dir】 -Doracle.home=【インストール Dir】 /oc4j -Doracle.oc4j.localhome=【インストール Dir】¥【コンピュータ名】 【SID 名】/sysman -DEMSTATE=【インストール Dir】¥¥【コンピュータ名】 【SID 名】 -Doracle.j2ee.dont.use.memory.archive=true -Djava.protocol.handler.pkgs=HTTPClient -Doracle.security.jazn.config= 【インストール Dir】/oc4j/j2ee/OC4J DBConsole 【コンピュータ名】 【SID 名】/config/jazn.xml -Djava.security.policy=【インストール Dir】 /oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_【コンピュータ名】_【SID 名】/config/java2.policy -Djava.security.properties=【インストール Dir】/oc4j/j2ee/home/config/jazn.security.props -DEMDROOT=【インストール Dir】¥¥【コンピュータ名】 【SID 名】 -Dsysman.md5password=true -Drepapi.oracle.home=【インストール Dir】 -Ddisable.checkForUpdate=true -Djava.awt.headless=true -jar 【インストール Dir】/oc4j/j2ee/home/oc4j.jar -config 【インストー ル Dir】oc4i/i2ee/OC4J DBConsole 【コンピュータ名】 _【SID 名】/config/server.xml

※ 注意事項

【インストール Dir】oc4j/j2ee/OC4J DBConsole 【コンピュータ名】 【SID 名】/config/server.xml があるものを記載してください。

7-2-3. (続き)

 OracleDBConsoleorcl <restart_oracle10gdbconsole.bat>

```
Xmx
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       : 256M
     @echo off
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    MaxPermSize
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           : 96M
 rem OracleDBConsoleの再起動スクリプトです。
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     : 20
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    MinHeapFreeRatio
 rem 起動の前処理
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    MaxHeapFreeRatio
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     : 40
cd C:\footnote{\text{VINDOWS}\footnote{\text{system}}32
 wmic process where "name = \forall "java.exe\forall" and commandline = \forall "C:\forall \forall variety \forall variety \forall \forall 1 \forall \f
     Xmx256M
                                                                                                                                                                                                              -XX:MaxPermSize=96m
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     -XX:MinHeapFreeRatio=20
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         -XX:MaxHeapFreeRatio=40
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  -Doracle.home=C:\footnote{\text{Yoracle}\footnote{\text{Yproduct}\footnote{\text{Y}}\footnote{\text{10}}.2.0\footnote{\text{Y}}\dot{\text{db}} \quad 1/oc4\footnote{\text{Y}}
     DORACLE HOME=C:\frac{1}{2} \text{Product} \frac{1}{2} \text{DORACLE}
   Doracle.oc4i.localhome=C:\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnote{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Voracle\footnome{\text{Vora
     DEMSTATE=C:\frac{1}{2} \text{ Fracle} \frac{1}{2} \text{ DEMSTATE} = C:\frac{1}{2} \text{ Fracle} \frac{1}{2} \text{ Product} \frac{1}{2} \tex
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  -Doracle.j2ee.dont.use.memory.archive=true
     Djava.protocol.handler.pkgs=HTTPClient
     Doracle.security.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C:\perpressionality.jazn.config=C
     Djava.security.policy=C:\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote{\text{Y}}\text{Foracle}\footnote
     -Djava.security.properties=C:\frac{2}{2} \text{Foracle} \text{Fora
     DEMDROOT=C:\footnote{\text{Y}}\text{product}\footnote{\text{Y}}\text{10.2.0}\footnote{\text{Y}}\text{db} 1\footnote{\text{Y}}\text{Win2003Oracle orcl}
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    -Dsysman.md5password=true
     Drepapi.oracle.home=C:\frac{1}{2} oracle\frac{1}{2} oracle\frace\frac{1}{2} oracle\frac{1}{2} oracle\frace\frac{1}{2} oracle\frac{1}{2} oracle\frace\frac{1}{2} oracle\frac{1}{2} oracle\frac{1}{2} oracle\frac{1}
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          -jar
   C:\fracle\frac{1}{2}ee/home/oc4j.jar
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  -config
   C:\fracle\frac{1}{2} \text{Product} \frac{1}{2} \text{DBConsole Win2003Oracle orcl/config/server.xml} \frac{1}{2} \text{Unit} \frac{1}{2} \text{DBConsole Win2003Oracle orcl/config/server.xml} \frac{1}{2} \text{Unit} \frac{
   rem 起動処理
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
 sc start OracleDBConsoleorcl
   exit
```

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。

例) 環境が以下の場合の再起動スクリプト

OracleDBConsole 【SID名】

: Win2003Oracle

: orcl

: C:\u00e4oracle\u00e4product\u00e410.2.0\u00e4db 1

コンピュータ名

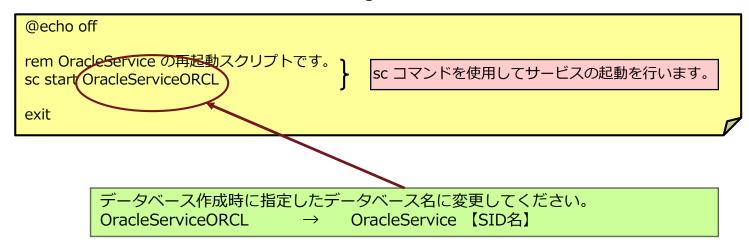
インストール Dir

SID 名

OracleDBConsoleorcl

7-2-3. (続き)

OracleServiceORCL <restart_oracle10gsvc.bat>



8. Oracle 11g の監視事例

- ・本事例は Oracle 11g R2 を使用しています。 Oracle にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。
- (1)システム一意

Oracle をインストールした際に登録されるサービスです。 Oracle 一意のサービスのため、複数登録されません。 【HOME NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。

Oracle [HOME NAME] TNSListener (OracleOraDb11g home1TNSListener)

*本書では、【HOME NAME】(ホーム名)を "OraDb11g home1" とします。

(2) インスタンス

DB を作成した際に登録されるサービスです。 DB 数分サービスが登録されます。 【SID】は、Oracle のデータベース作成時に指定するデータベース名です。

- · OracleDBConsole 【SID 名】 (OracleDBConsoleorcl)
- · OracleService 【SID 名】 (OracleServiceORCL)

*本書では、【SID 名】(データベース名)を "orcl" とします。

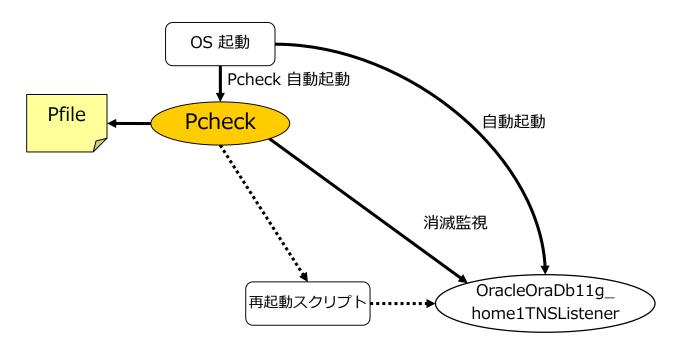
8-1. システム一意

8-1-1. 概要

 $\cdot \ \, {\sf OracleOraDb11g_home1TNSListener}$

タイプ	Service
表示名	OracleOraDb11g_home1TNSListener
サービス名	OracleOraDb11g_home1TNSListener
常駐プロセス	TNSLSNR.EXE
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	無し

8-1-1. (続き)



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

8-1-2. Pfile

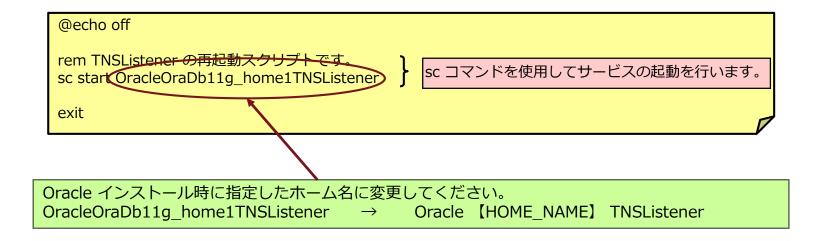
Pfile <sample_oracle11g_system>

```
##### PARAM #####
                              5
MsqCheckInterval
MonitorInterval
                             10
DumpFileName
                             "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\oracle11g system.dmp"
UpMessageReduceMode
                            disable
##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Group
Tag:ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleOraDb11g_home1TNSListener, C:\ProgramFiles\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart_tnslistener_11g.bat",86400,3,C
Ontinue Service
```

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。 OracleOraDb11g home1TNSListener → Oracle 【HOME NAME】 TNSListener

8-1-3. 再起動スクリプト

OracleOraDb11g_home1TNSListener < restart_tnslistener_11g.bat>



8-2. インスタンス

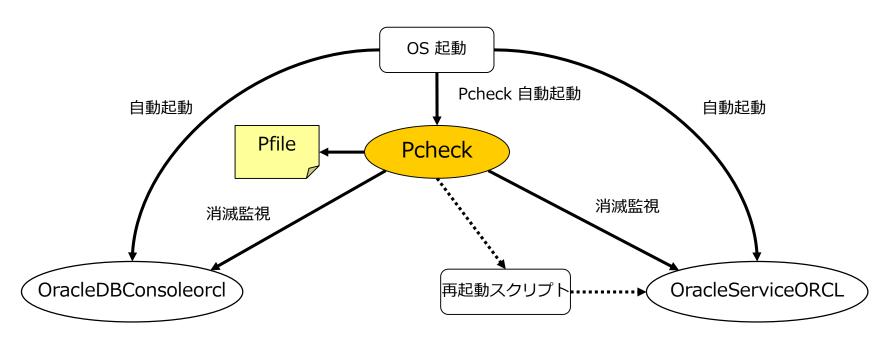
8-2-1. 概要

- OracleDBConsoleorcl
- OracleServiceORCL

タイプ	Service	Service
表示名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
サービス名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
常駐プロセス	nmesrvc.exe emagent.exe perl.exe java.exe cmd.exe	oracle.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

(続き) 8.

8-2-1. (続き)



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ OracleServiceORCL のみ消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

8-2-2. Pfile

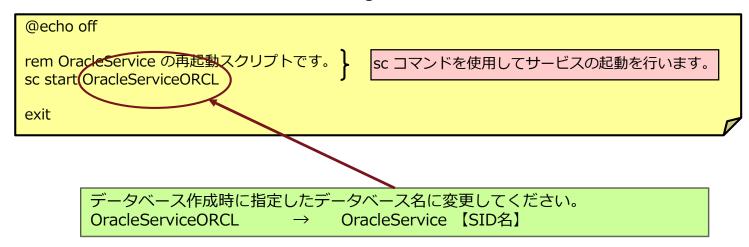
Pfile <sample_oracle11g_instance>

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                              5
MonitorInterval
                              10
DumpFileName
                              "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\oracle11g instance.dmp"
UpMessageReduceMode
                             disable
##### PENT #####
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; Clea
remd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleDBConsoleorcl, 86400,0, Continue, Service
OracleServiceORCL, "Q: \Program Files\Phase HA\ProcessSaver\Pscriptfile\Prestart oracle11gsvc.bat", 86400, 3, Continue, Service
```

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。 OracleDBConsoleorcl → OracleDBConsole 【SID名】 OracleServiceORCL OracleService 【SID名】

8-2-3. 再起動スクリプト

OracleServiceORCL <restart_oracle11gsvc.bat>



9. Oracle 12c の監視事例

- ・本事例は Oracle 12c を使用しています。 Oracle にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。
- (1)システム一意

Oracle をインストールした際に登録されるサービスです。 Oracle 一意のサービスのため、複数登録されません。 【HOME NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。

Oracle [HOME NAME] TNSListener (OracleOraDB12Home1TNSListener)

*本書では、【HOME NAME】(ホーム名)を "OraDB12Home1" とします。

(2) インスタンス

DB を作成した際に登録されるサービスです。 DB 数分サービスが登録されます。 【SID】は、Oracle のデータベース作成時に指定するデータベース名です。

- · OracleService [SID 名] (OracleServiceORCL)
- OracleVssWriter【SID 名】(OracleVssWriterORCL)

*本書では、【SID 名】(データベース名)を "orcl" とします。

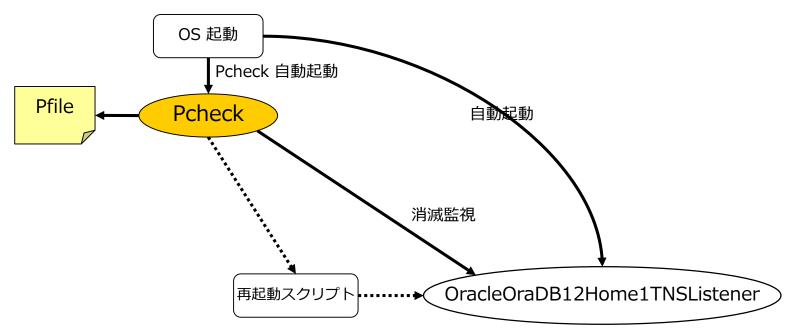
9-1. システム一意

9-1-1. 概要

OracleOraDB12Home1TNSListener

タイプ	Service
表示名	OracleOraDB12Home1TNSListener
サービス名	OracleOraDB12Home1TNSListener
常駐プロセス	TNSLSNR.EXE
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	無し

9-1-1. (続き)



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

9-1-2. Pfile

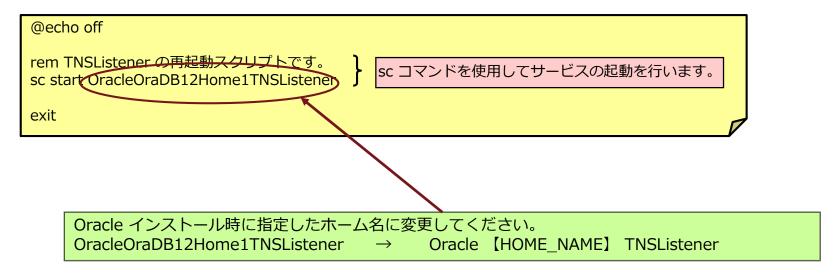
Pfile <sample_oracle12c_system>

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                              5
MonitorInterval
                              10
DumpFileName
                              "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\oracle12c system.dmp"
UpMessageReduceMode
                             disable
##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Group
Tag; Clear Cmd; Include Strings; Restart Wait Time; Restart Time Out; Pname Full Match
OracleOraDB12Home1TNSListener, : YProgram
Files*HA*ProcessSaver*scriptfile*restart tnslistener 12c.bat",86400,3,Continue,Service
```

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。 OracleOraDB12Home1TNSListener → Oracle 【HOME NAME】 TNSListener

9-1-3. 再起動スクリプト

OracleOraDB12Home1TNSListener<restart_tnslistener_12c.bat>



9-2. インスタンス

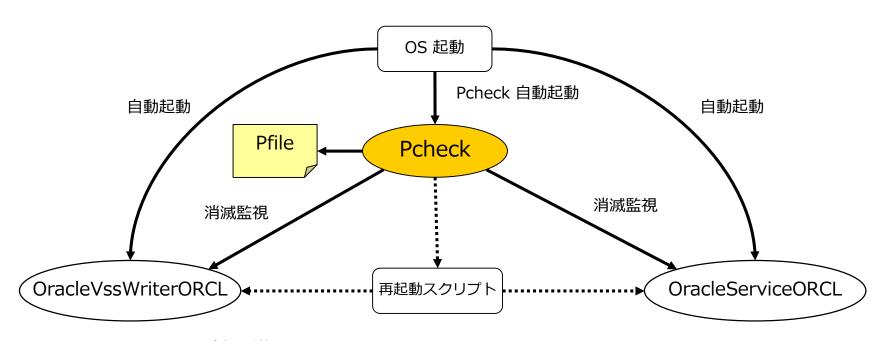
9-2-1. 概要

- OracleVssWriterORCL
- OracleServiceORCL

タイプ	Service	Service
表示名	OracleVssWriterORCL	OracleServiceORCL
サービス名	OracleVssWriterORCL	OracleServiceORCL
常駐プロセス	oravssw.exe	oracle.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

(続き) 9.

9-2-1. (続き)



監視手順

- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- · Pcheck による消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

9-2-2. Pfile

Pfile <sample oracle12c instance>

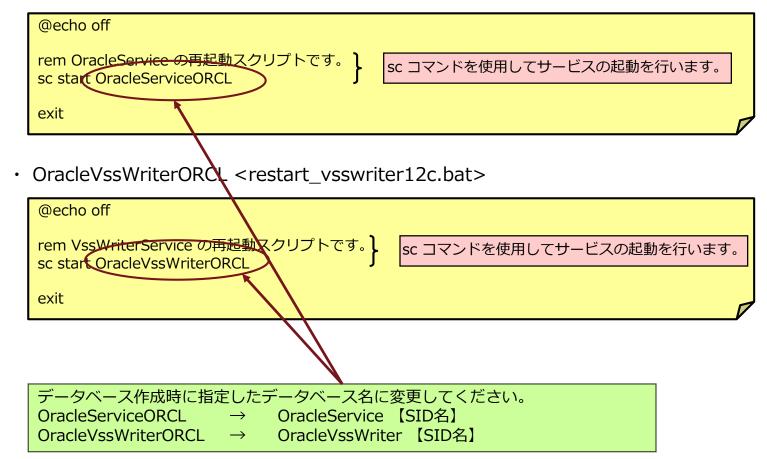
```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                                 5
MonitorInterval
                                 10
DumpFileName
                                 "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\oracle12c instance.dmp"
UpMessageReduceMode
                                disable
##### PFNT #####
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; Clea
rCmd;IncludeStrings:RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleVssWriterORCL, C: \text{YProgram Files\text{#HA\text{ProcessSaver\text{\text{\text{scriptfile\text{\text{\text{restart_vsswriter12c.bat",86400,3,Continue,Service}}}
OracleServiceORCL, "C. *Program Files*HA*ProcessSaver*scriptfile*restart oracle12csvc.bat",86400,3,Continue,Service
```

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。 OracleVssWriterORCL → OracleVssWriter 【SID名】 OracleServiceORCL OracleService 【SID名】



9-2-3. 再起動スクリプト

OracleServiceORCL < restart oracle12csvc.bat >



10. IIS6.0 の監視事例

10-1. 概要

本事例は IIS6.0 を使用しています。 IIS6.0 は Windows Server 2003 に標準で搭載されています。

IIS6.0 にて提供される機能は、下記のとおりです。

-Web サーバ 使用するサービス

- IISADMIN
- W3SVC
- HTTPFilter

状態サーバモード使用時に必要なサービス

aspnet state

-FTP サーバ 使用するサービス

- IISADMIN
- MSFTPSVC

-SMTP サーバ 使用するサービス

- IISADMIN
- SMTPSVC

-POP3 サーバ 使用するサービス

- IISADMIN
- SMTPSVC
- POP3SVC

-NNTP サーバ 使用するサービス

- IISADMIN
- NNTPSVC
- * IISADMIN サービスはすべての機能で使用されます。

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードなし)

タイプ	Service	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	World Wide Web Publishing Service	HTTP SSL
サービス名	IISADMIN	W3SVC	HTTPFilter
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe	lsass.exe
スタートアップ	自動	自動	手動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する	何もしない
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC) Security Acounts Manager	IIS Admin Service Remote Procedure Call(RPC) HTTP SSL	HTTP IIS Admin Service
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service FTP Publishing Service Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) Network News Transfer Protocol(NNTP) Microsoft POP3 Service HTTP SSL 	無し	World Wide Web Publishing Service

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードあり)

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	World Wide Web Publishing Service	HTTP SSL	ASP.NET State Service
サービス名	IISADMIN	W3SVC	HTTPFilter	aspnet_state
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe	lsass.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	自動	自動	手動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する	何もしない	何もしない
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC) Security Acounts Manager	IIS Admin Service Remote Procedure Call(RPC) HTTP SSL	• HTTP • IIS Admin Service	無し
依存されるサービス	World Wide Web Publishing Service FTP Publishing Service Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) Network News Transfer Protocol(NNTP) Microsoft POP3 Service HTTP SSL	無し	World Wide Web Publishing Service	無し

FTP サーバ使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	FTP Publishing Service
サービス名	IISADMIN	MSFTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC)Security Acounts Manager	· IIS Admin Service
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service FTP Publishing Service Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) Network News Transfer Protocol(NNTP) Microsoft POP3 Service HTTP SSL 	無し

SMTP サーバ使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Simple Mail Transfer Protocol(SMTP)
サービス名	IISADMIN	SMTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC) Security Acounts Manager	Event Log IIS Admin Service
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service FTP Publishing Service Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) Network News Transfer Protocol(NNTP) Microsoft POP3 Service HTTP SSL 	無し

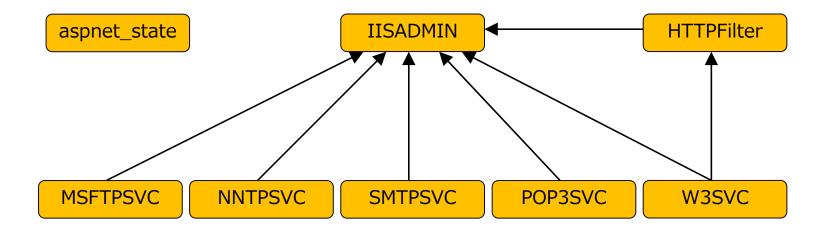
POP3 サーバ使用時に必要なサービス

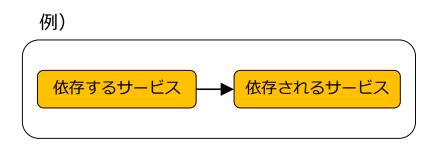
タイプ	Service	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Microsoft POP3 Service	Simple Mail Transfer Protocol(SMTP)
サービス名	IISADMIN	POP3SVC	SMTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	POP3Svc.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する	何もしない
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC)Security Acounts Manager	Event LogIIS Admin Service	Event LogIIS Admin Service
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service FTP Publishing Service Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) Network News Transfer Protocol(NNTP) Microsoft POP3 Service HTTP SSL 	無し	無し

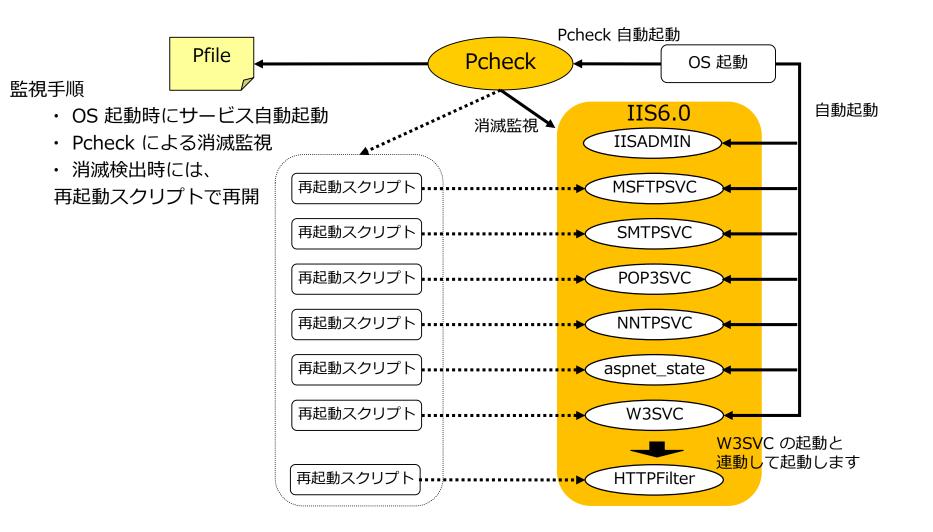
NNTP サーバ使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Network News Transfer Protocol(NNTP)
サービス名	IISADMIN	NNTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC) Security Acounts Manager	Event Log IIS Admin Service
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service FTP Publishing Service Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) Network News Transfer Protocol(NNTP) Microsoft POP3 Service HTTP SSL 	無し

サービスの依存関係







10-2. Pfile

Pfile <sample iis6.0>

本 Pfile は IIS6.0 で 標準搭載されている機能をすべて監視する Pfile です。

本 Pfile は使用する機能や構築手順により、監視するサービスの名前や順番を

変更する必要があります。その場合、「10-4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM ##### MsgCheckInterval MonitorInterval 10 DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\IIS6.dmp" UpMessageReduceMode disable ##### PENT ##### ## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag; ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch ## NNTP サーバ ## NNTPSVC,"C:\(\text{Program Files\(\text{HA\(\text{ProcessSaver\(\text{\}}\)scriptfile\(\text{\}}\)restart IIS6 nntp.bat",86400,3,Continue,Service ## POP3 サーバ ## POP3SVC,"C:\u00e4Program Files\u00e4HA\u00e4ProcessSaver\u00e4scriptfile\u00e4restart IIS6 pop3.bat",86400,3,Continue,Service 次ページへ続く

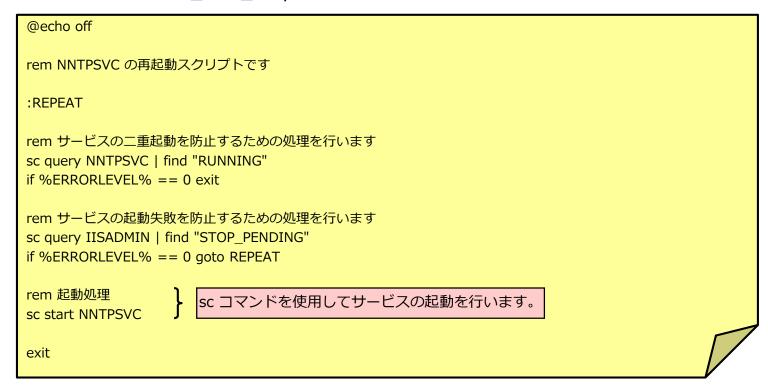
(続き) 10.

続き ## SMTP サーバ / POP3 サーバ ## SMTPSVC,"C:\program Files\processSaver\proces\processSaver\proces\proc ## FTP サーバ ## MSFTPSVC, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart IIS6 ftp.bat",86400,3,Continue,Service ## Web サーバ ## W3SVC,"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart IIS6 w3.bat",86400,3,Continue,Service HTTPFilter, "C: ¥Program Files ¥HA ¥Process Saver ¥scriptfile ¥restart_IIS6_ssl.bat", 86400, 3, Continue, Service ## 全機能共通 ## IISADMIN,,86400,3,Continue,Service ## Web サーバ (状態サーバモード) ## aspnet state, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart IIS6 aspnet state.bat", 86400, 3, Continue, Service

10-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

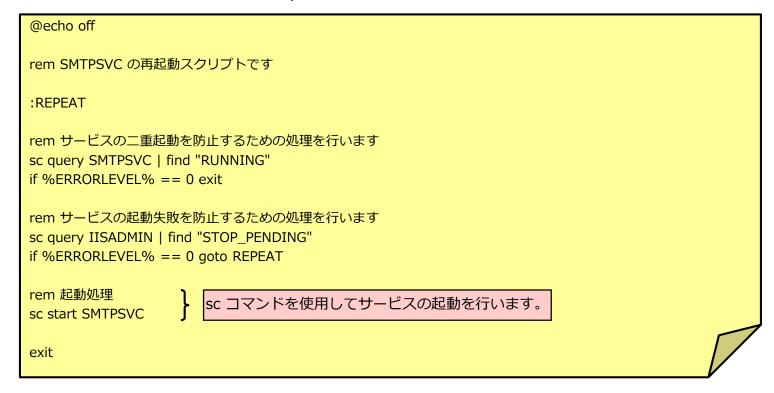
NNTPSVC <restart_IIS6_nntp.bat>



POP3SVC <restart_IIS6_pop3.bat>

```
@echo off
rem POP3SVC の再起動スクリプトです
:REPEAT
rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query POP3SVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit
rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT
rem 起動処理
                  sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start POP3SVC
exit
```

SMTPSVC <restart_IIS6_smtp.bat>



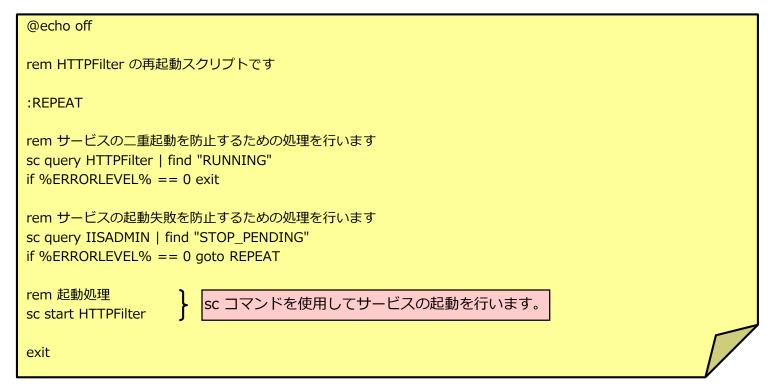
MSFTPSVC <restart_IIS6_ftp.bat>

@echo off rem MSFTPSVC の再起動スクリプトです :REPEAT rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います sc query MSFTPSVC | find "RUNNING" if %ERRORLEVEL% == 0 exit rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います sc query IISADMIN | find "STOP PENDING" if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT rem 起動処理 sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。 sc start MSFTPSVC exit

W3SVC <restart_IIS6_w3.bat>

@echo off rem W3SVC の再起動スクリプトです :REPEAT rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います sc query W3SVC | find "RUNNING" if %ERRORLEVEL% == 0 exit rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います sc query HTTPFilter | find "STOP PENDING" if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT sc query IISADMIN | find "STOP PENDING" if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT rem 起動処理 sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。 sc start W3SVC exit

HTTPFilter <restart_IIS6_ssl.bat>



aspnet_state <restart_IIS6_aspnet_state.bat>

```
@echo off
rem aspnet_state の再起動スクリプトです
rem 起動処理
                     sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start aspnet_state
exit
```

10-4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- ・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- 機能の追加や削除を行った場合、サービス名が変わることがあります。 そのため、表示されているとおりに Pfile のサービス名を書き換えてください。
- ・ IISADMIN に依存するサービスは IISADMIN サービス停止時に、機能を追加した順番に 停止します。そのため、機能を追加した逆順に Pfile を書き換えてください。

以降、Web サーバ (状態サーバモードなし)、FTP サーバ、SMTP サーバ、POP3 サーバ、 NNTP サーバを監視する Pfile への書き換え手順を説明します。

Pfile 書き換え手順

10-4-1. IIS6.0 の状態確認



10-4-2. Pfile の読み込み



10-4-3. 監視しないサービスの削除



10-4-4. 監視するサービスの並び替え



10-4-5. Pfile の保存

10-4-1. IIS6.0 の状態確認

IIS6.0 に関連するインストール済みのサービス、サービス名、サービスのインストール順の 確認を行います。

(1) IIS6.0 の構成が終わった後に、コマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行し、 IIS6.0 に関連するすでにインストールされているサービスの一覧の情報を表示します。

(すべてのフォルダ配下で実行可能) > iisreset /status

出力例 *インストールしている構成によってサービスの表示件数が異なります。

C:\text{Pocuments and Settings}\text{Administrator} is reset / status

Microsoft POP3 Service (POP3SVC) の状態: 実行中

World Wide Web Publishing Service (W3SVC)の状態:実行中

Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) (SMTPSVC) の状態:実行中 Network News Transfer Protocol (NNTP) (NntpSvc) の状態: 実行中

FTP Publishing Service (MSFtpsvc) の状態:実行中

HTTP SSL (HTTPFilter) の状態:実行中

(2) IIS6.0 でインストールされているサービスを確認し、そのサービス名 (下線部) と表示順を 確認してください。

C:\footnote{\text{Documents}} and Settings\footnote{\text{Administrator}} iisreset /status

Microsoft POP3 Service (POP3SVC) の状態: 実行中

World Wide Web Publishing Service (W3SVC)の状態:実行中

Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) (SMTPSVC) の状態: 実行中

Network News Transfer Protocol (NNTP) (NntpSvc) の状態:実行中

FTP Publishing Service (MSFtpsvc) の状態:実行中

HTTP SSL (HTTPFilter) の状態:実行中

10-4-2. Pfile の読み込み

『Create Pfile』で Read を押して (1)Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_iis6.0> の読み込みを 行ってください。

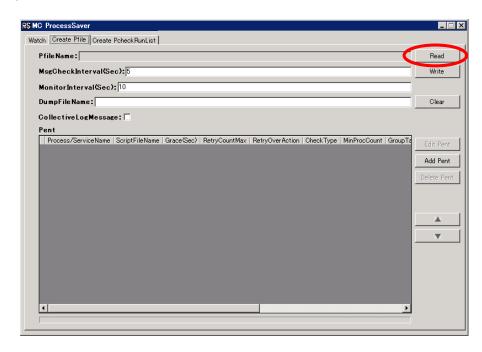
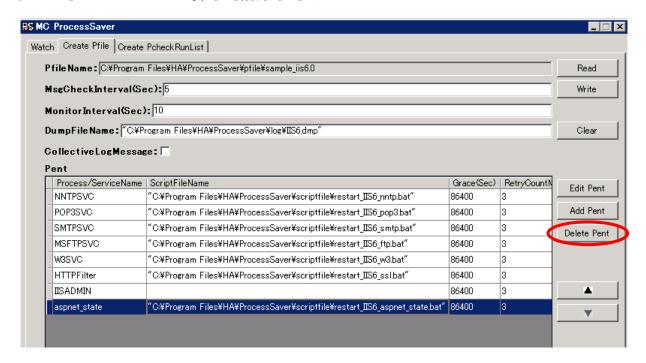


図1 **Create Pfile**

10-4-3. 監視しないサービスの削除

『Create Pfile』の「Pent]から監視しないサービスの aspnet state にカーソルを (1) あわせて Delete Pent を押して削除してください。



Create Pfile 図2

(続き) 10.

10-4-4. 監視するサービスの並び替え

「IIS の状態確認」 で確認した表示順とおりに [Pent] を並び替えてください。 (1) 並び替えの手順について「 CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.2 for Windows ユーザーズガイド(コンソール編)」を参照してください。また、IISADMIN が一番下であることを 確認してください。

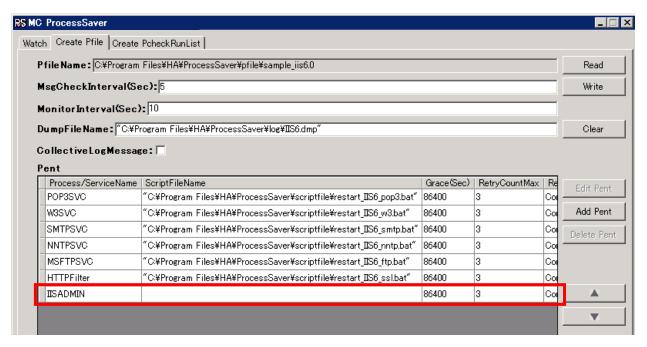
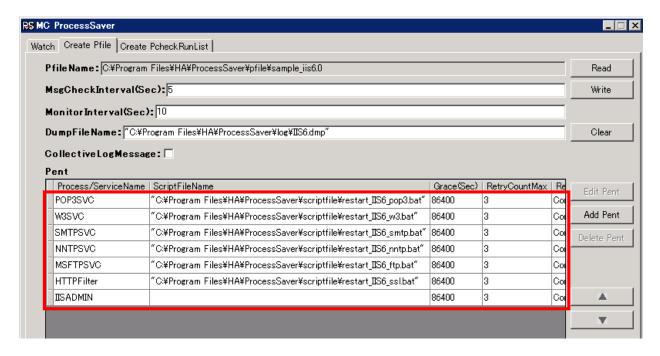


図3 **Create Pfile**

(続き) 10.

(2) 監視するすべての [Process/ServiceName]が「10-4-1. IIS6.0 の状態確認」で 確認したサービス名と同じであるか確認してください。



Create Pfile 図4

10-4-5. Pfile の保存

『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_iis6.0> を保存してください。

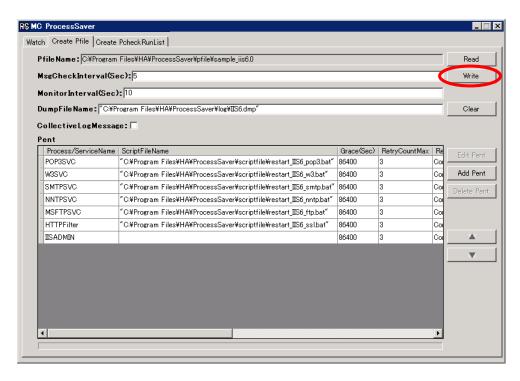


図5 **Create Pfile**

11. IIS7.0 の監視事例

11-1. 概要

本事例は IIS7.0 を使用しています。 IIS7.0 は Windows Server 2008 に標準で搭載されています。

IIS7.0 にて提供される機能は、下記のとおりです。

-Web サーバ 使用するサービス

- WAS
- W3SVC
- AppHostSvc

状態サーバモード使用時に必要なサービス

aspnet state

-リモート管理 使用するサービス

WMSvc



```
-FTP サーバ
IIS7.0 では FTP サーバが 2 バージョンから選択可能で、どちらか一つしかインストールでき
  ません。
それぞれの FTP サーバが使用するサービスは以下のとおりです。
 (FTP)
 使用するサービス
    · IISADMIN

    MSFTPSVC

 (FTP 7)
 使用するサービス
    ftpsvc
```

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードなし)

タイプ	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe
スタートアップ	手動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する
依存するサービス	· Remote Procedure Call(RPC)	Windows Process Activation Service	無し
依存されるサービス	World Wide Web Publishing Service	無し	無し

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードあり)

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service	ASP.NET State Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc	aspnet_state
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	手動	自動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC)	Windows Process Activation Service	無し	無し
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service 	無し	無し	無し

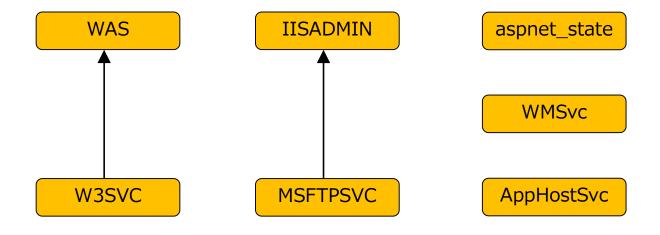
リモート管理使用時に必要なサービス

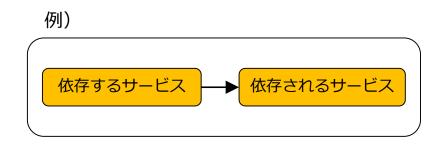
タイプ	Service
表示名	Web Management Service
サービス名	WMSvc
常駐プロセス	WMSvc.exe
スタートアップ	自動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	·HTTP
依存されるサービス	無し

FTP サーバ (FTP) 使用時に必要なサービス

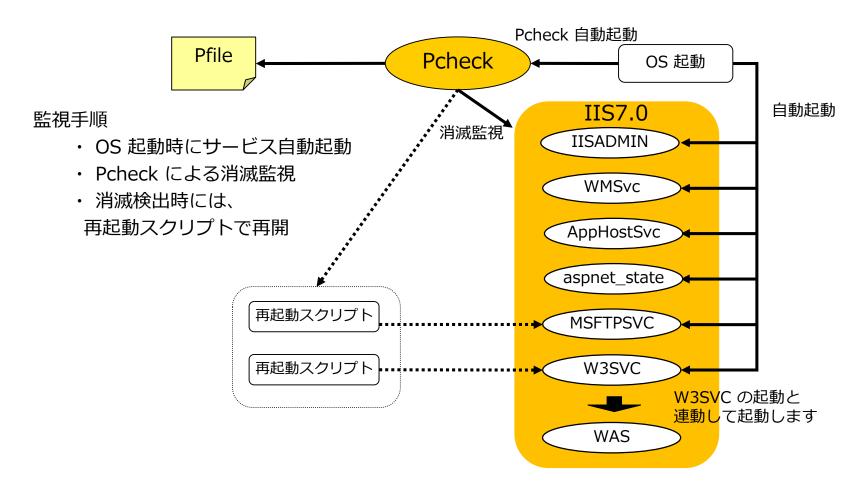
タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	FTP Publishing Service
サービス名	IISADMIN	MSFTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager		· IIS Admin Service
依存されるサービス	HTTPFTP Publishing Service	無し

FTP サーバ (FTP) 使用時 サービスの依存関係





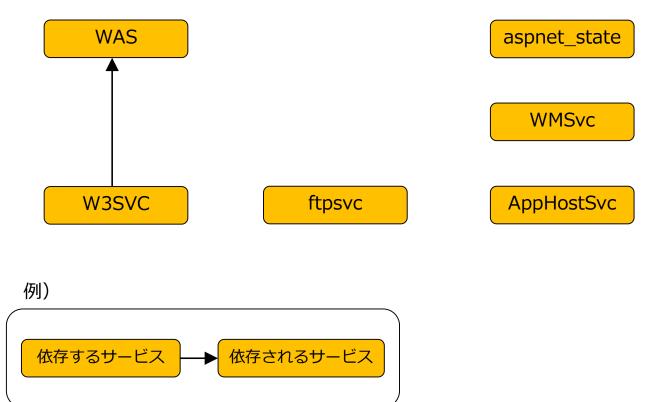
FTP サーバ (FTP) 使用時



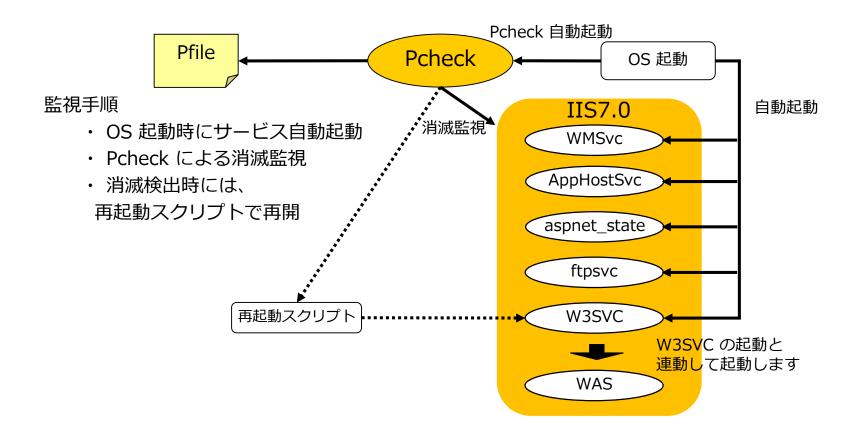
FTP サーバ (FTP 7) 使用時に必要なサービス

タイプ	Service
表示名	Microsoft FTP Service
サービス名	ftpsvc
常駐プロセス	svchost.exe
スタートアップ	自動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	• Remote Procedure Call(RPC)
依存されるサービス	無し

FTP サーバ (FTP 7) 使用時 サービスの依存関係



FTP サーバ (FTP 7) 使用時



11-2. Pfile

Pfile <sample_iis7.0>

本 Pfile は IIS7.0 で 以下のサーバまたは、機能を監視する Pfile です。

-Web サーバ (状態サーバモードあり)

-リモート管理

-FTP サーバ (FTP)

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

本 Pfile は FTP サーバ (FTP 7) の監視はコメントアウトしていますので FTP サーバ (FTP 7) を 監視するためには Pfile を変更する必要があります。その場合、「11-4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval 10

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\IIS7.dmp" DumpFileName

UpMessageReduceMode disable

次ページへ続く

(続き)

```
続き
##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
## Web サーバ ##
AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service
W3SVC, "C: ¥Program Files ¥HA¥ProcessSaver ¥script file ¥restart IIS7 w3.bat", 86400, 3, Continue, Service
WAS,,86400,3,Continue,Service
## Web サーバ ( 状態サーバモード ) ##
aspnet_state,,86400,3,Continue,Service
## リモート管理 ##
WMSvc,,86400,3,Continue,Service
## FTP サーバ ##
MSFTPSVC, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart IIS7 ftp.bat",86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service
### FTP 7 ###
# FTP を使用する設定にしているため FTP 7 はコメントアウトしています
#ftpsvc,,86400,3,Continue,Service
```

11-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

W3SVC <restart_IIS7_w3.bat>

```
@echo off
rem W3SVC の再起動スクリプトです
:REPEAT
rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query W3SVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit
rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query WAS | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT
rem 起動処理
                sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start W3SVC
exit
```

MSFTPSVC <restart_IIS7_ftp.bat>

@echo off rem MSFTPSVC の再起動スクリプトです :REPEAT rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います sc query MSFTPSVC | find "RUNNING" if %ERRORLEVEL% == 0 exit rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING" if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT rem 起動処理 sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。 sc start MSFTPSVC exit

11-4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- ・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- FTP サーバ (FTP 7) の監視については、コメントアウトしています。 FTP サーバ (FTP 7) を使用する場合は、Pfile を書き換えて、コメントインしてく ださい。

以降、Web サーバ (状態サーバモードあり)、リモート管理、FTP サーバ (FTP 7) を使用 する場合の

Pfile への書き換え手順を説明します。

Pfile 書き換え手順

11-4-1. Pfile の直接編集



11-4-2. Pfile の読み込み



11-4-3. 監視しないサービスの削除

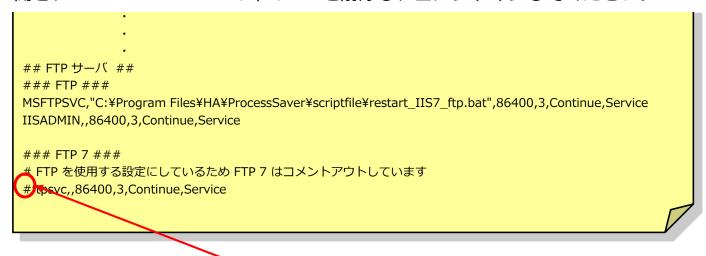


11-4-4. Pfile の保存

11-4-1. Pfile の直接編集

(1) テキストエディタなどで Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_iis7.0> を

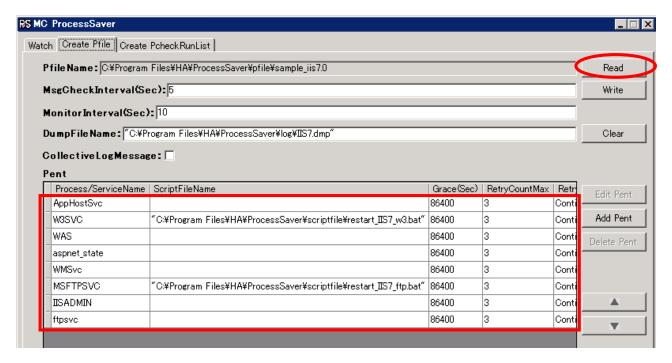
開き、### FTP 7 ### の下の # を削除し、コメントインしてください。



を削除してコメントインしてください。

11-4-2. Pfile の読み込み

(1) 『Create Pfile』で Read を押して Pfile <C:\program Files\processSaver\proces\processSaver\proces\processSaver\proces\pr 下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、 Page 16 の手順により Pfile を再取得し、もう一度 「11-4-1. Pfile の直接編集」 からやり直してください。



Create Pfile 図6

11-4-3. 監視しないサービスの削除

『Create Pfile』の「Pent]から FTP サーバ(FTP)のサービスの MSFTPSVC と IISADMIN を Delete Pent を押して削除してください。

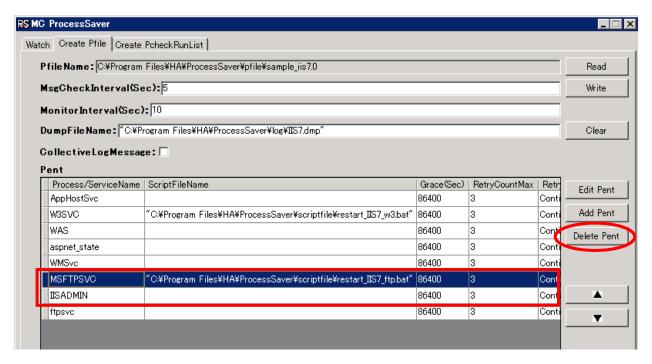


図7 **Create Pfile**

11-4-4. Pfile の保存

『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\program Files\processSaver\pfile\processSaver\pfile\processSaver\pfile\processSaver\proces\processSaver\proces\pro

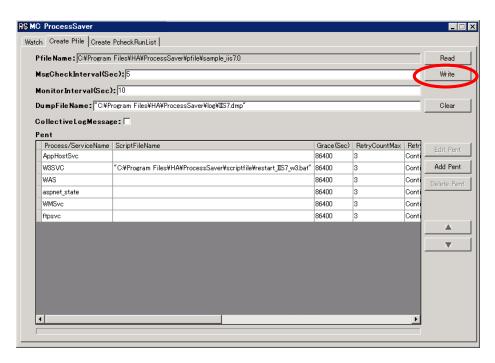


図8 **Create Pfile**

12. IIS7.5 の監視事例

12-1. 概要

本事例は IIS7.5 を使用しています。 IIS7.5 は Windows Server 2008 R2 に標準で搭載されています。

IIS7.5 にて提供される機能は、下記のとおりです。

-Web サーバ 使用するサービス

- WAS
- W3SVC
- AppHostSvc

状態サーバモード使用時に必要なサービス

aspnet_state

-リモート管理 使用するサービス

WMSVC

-FTP サーバ 使用するサービス

- IISADMIN
- ftpsvc



Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードなし)

タイプ	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe
スタートアップ	手動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する
依存するサービス	· Remote Procedure Call(RPC)	HTTP Windows Process Activation Service	無し
依存されるサービス	World Wide Web Publishing Service	無し	無し

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードあり)

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service	ASP.NET State Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc	aspnet_state
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	手動	自動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存するサービス	• Remote Procedure Call(RPC)	HTTPWindows ProcessActivationService	無し	無し
依存されるサービス	 World Wide Web Publishing Service 	無し	無し	無し

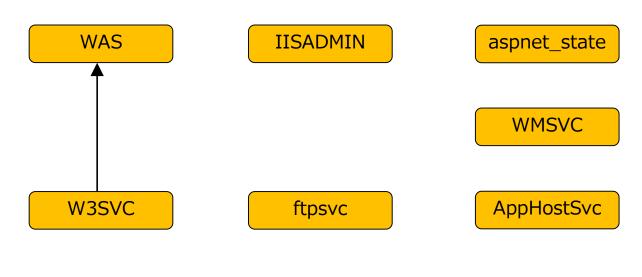
リモート管理使用時に必要なサービス

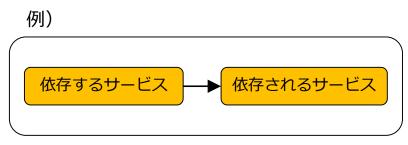
タイプ	Service
表示名	Web Management Service
サービス名	WMSVC
常駐プロセス	WMSvc.exe
スタートアップ	手動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	·HTTP
依存されるサービス	無し

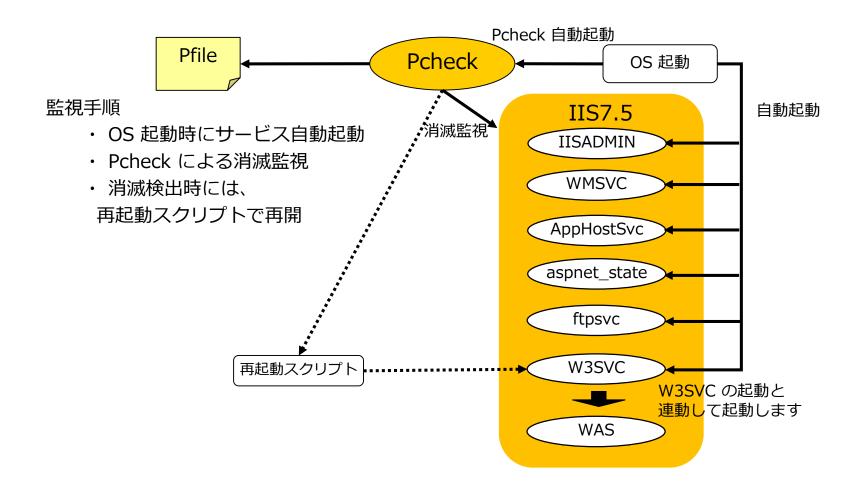
FTP サーバ (FTP) 使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Microsoft FTP Service
サービス名	IISADMIN	ftpsvc
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC)Security Acounts Manager	Remote Procedure Call(RPC)
依存されるサービス	無し	無し

サービスの依存関係







12-2. Pfile

```
Pfile <sample_iis7.5>
```

本 Pfile は IIS7.5 で 以下のサーバまたは、機能を監視する Pfile です。

-Web サーバ (状態サーバモードあり)

-リモート管理

-FTP サーバ

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

その場合、「12-4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\footnote{\text{Program Files}HA}\text{ProcessSaver}\text{log}\text{IIS75.dmp}"

UpMessageReduceMode disable

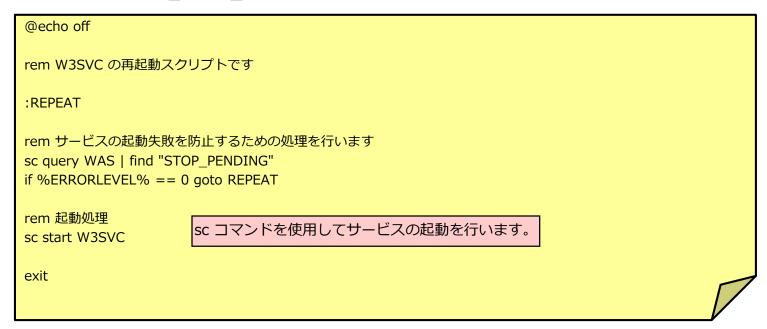
次ページへ続く

続き ##### PENT ##### ## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag; ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch ## Web サーバ ## AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service W3SVC, "C: ¥Program Files ¥HA ¥Process Saver ¥script file ¥restart IIS75 w3.bat", 86400, 3, Continue, Service WAS,,86400,3,Continue,Service ## Web サーバ (状態サーバモード) ## aspnet_state,,86400,3,Continue,Service ## リモート管理 ## WMSVC,,86400,3,Continue,Service ## FTP サーバ ## ftpsvc,,86400,3,Continue,Service IISADMIN,,86400,3,Continue,Service

12-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

W3SVC <restart_IIS75_w3.bat>



12-4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。

以降、状態サーバモードなしにする、または、リモート管理や FTP サーバ を監視しない場合の Pfile への書き換え手順を説明します。

Pfile 書き換え手順

12-4-1. Pfile の直接編集



12-4-2. Pfile の読み込み



12-4-3. 監視しないサービスの削除



12-4-4. Pfile の保存

12-4-1. Pfile の直接編集

(1) テキストエディタなどで Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample iis7.5> を 開き、監視しないサービスを削除するか、コメントアウトしてください。



12-4-2. Pfile の読み込み

(1) 『Create Pfile』で Read を押して Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_iis7.5> の読み込みを行ってください。

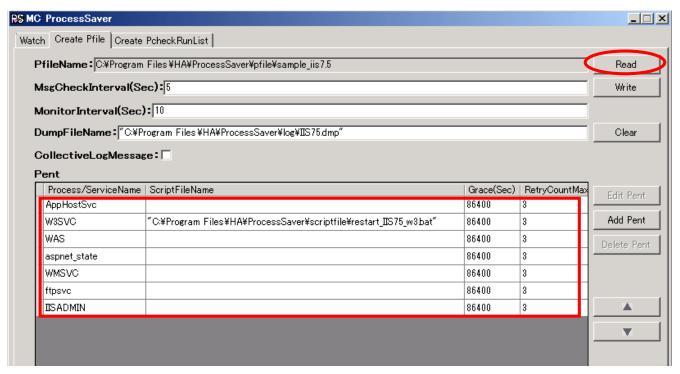


図9 **Create Pfile**

12-4-3. 監視しないサービスの削除

(1)『Create Pfile』 の「Pent] から、監視しないサービスを 選択し、 Delete Pent を押して削除してください。

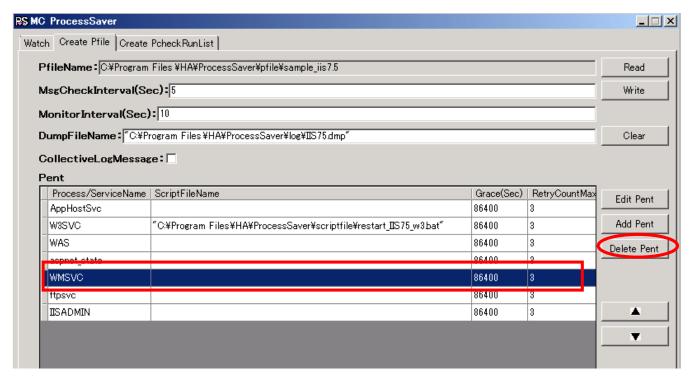


図10 **Create Pfile**

12-4-4. Pfile の保存

『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\program Files\processSaver\pfile\processSaver\pfile\processSaver\pfile\processSaver\proces\processSaver\proces\processSaver\proces\pr

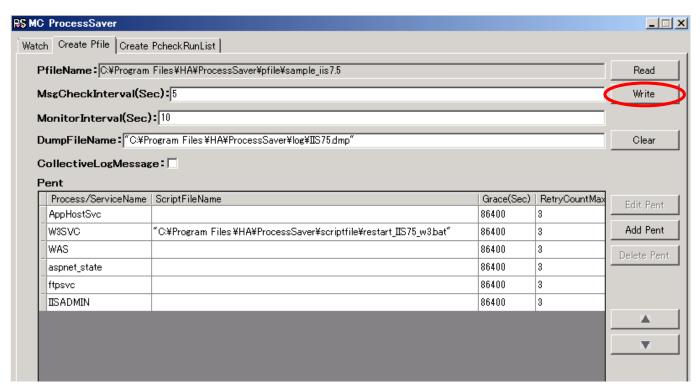


図11 **Create Pfile**

13. IIS8.0 の監視事例

13-1. 概要

本事例は IIS8.0 を使用しています。

IIS8.0 は Windows Server 2012 に標準で搭載されています。

IIS8.0 にて提供される機能は、下記のとおりです。

※ IIS8.0 にて提供される機能は、IIS7.5 にて提供される機能と同じものです。

ただし、IIS7.5 と IIS8.0 とではサービス名が異なり、Pfile や再起動スクリプトに指定するサービ ス名を変更する必要がありますので、バージョンにあったテンプレートを使用してください。

-Web サーバ

使用するサービス

- WAS
- W3SVC
- AppHostSvc

状態サーバモード使用時に必要なサービス

- aspnet state
- -リモート管理

使用するサービス

- WMSvc
- -FTP サーバ

使用するサービス

- IISADMIN
- FTPSVC

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードなし)

タイプ	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe
スタートアップ	手動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する
依存するサービス	· Remote Procedure Call(RPC)	HTTP Windows Process Activation Service	無し
依存されるサービス	World Wide Web Publishing Service	無し	無し

Web サーバ使用時に必要なサービス (状態サーバモードあり)

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service	ASP.NET State Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc	aspnet_state
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	手動	自動	自動	手動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存するサービス	• Remote Procedure Call(RPC)	HTTPWindows ProcessActivationService	無し	無し
依存されるサービス	World Wide Web Publishing Service	無し	無し	無し

リモート管理使用時に必要なサービス

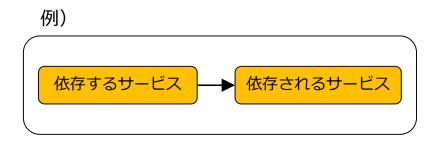
タイプ	Service
表示名	Web Management Service
サービス名	WMSvc
常駐プロセス	WMSvc.exe
スタートアップ	手動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	·HTTP
依存されるサービス	無し

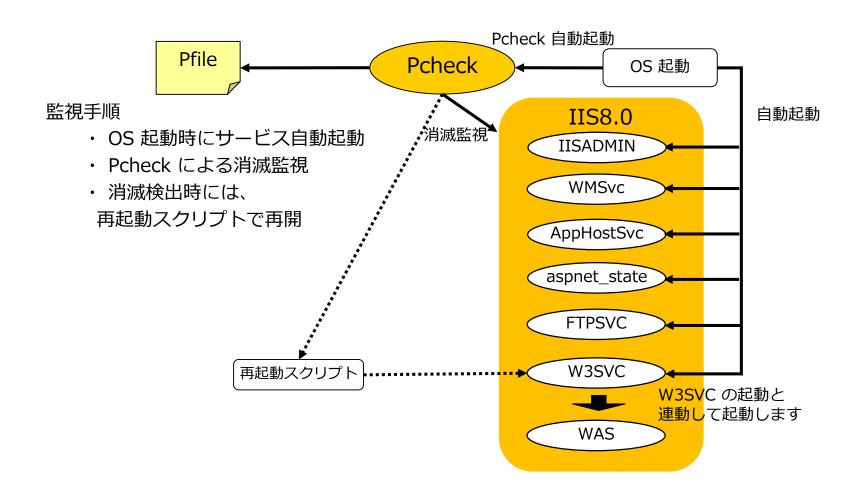
FTP サーバ (FTP) 使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Microsoft FTP Service
サービス名	IISADMIN	FTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する
依存するサービス	Remote Procedure Call(RPC)Security Acounts Manager	Remote Procedure Call(RPC)
依存されるサービス	無し	無し

サービスの依存関係







13-2. Pfile

```
Pfile <sample_iis8.0>
```

本 Pfile は IIS8.0 で 以下のサーバまたは、機能を監視する Pfile です。

-Web サーバ (状態サーバモードあり)

-リモート管理

-FTP サーバ

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

その場合、「13-4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsgCheckInterval 5 MonitorInterval 10

"C:\text{Program Files\text{\text{HA\text{\text{\text{ProcessSaver\text{\text{\text{log\text{\text{\text{IIS8.dmp}}"}}}} DumpFileName

UpMessageReduceMode disable

次ページへ続く

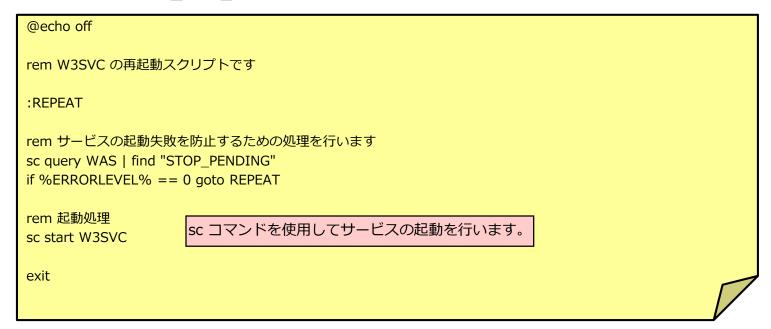
(続き) 13.

続き ##### PENT ##### ## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag; ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch ## Web サーバ ## AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service W3SVC, "C: ¥Program Files ¥HA¥ProcessSaver ¥script file ¥restart IIS8 w3.bat", 86400, 3, Continue, Service WAS,,86400,3,Continue,Service ## Web サーバ (状態サーバモード) ## aspnet_state,,86400,3,Continue,Service ## リモート管理 ## WMSvc,,86400,3,Continue,Service ## FTP サーバ ## FTPSVC,,86400,3,Continue,Service IISADMIN,,86400,3,Continue,Service

13-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

W3SVC <restart_IIS8_w3.bat>



13-4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。

以降、状態サーバモードなしにする、または、リモート管理や FTP サーバ を監視しない場合の Pfile への書き換え手順を説明します。

Pfile 書き換え手順

13-4-1. Pfile の直接編集



13-4-2. Pfile の読み込み



13-4-3. 監視しないサービスの削除



13-4-4. Pfile の保存

13-4-1. Pfile の直接編集

(1) テキストエディタなどで Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample iis8.0> を 開き、監視しないサービスを削除するか、コメントアウトしてください。



13-4-2. Pfile の読み込み

(1) 『Create Pfile』で Read を押して Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample_iis8.0> の読み込みを行ってください。

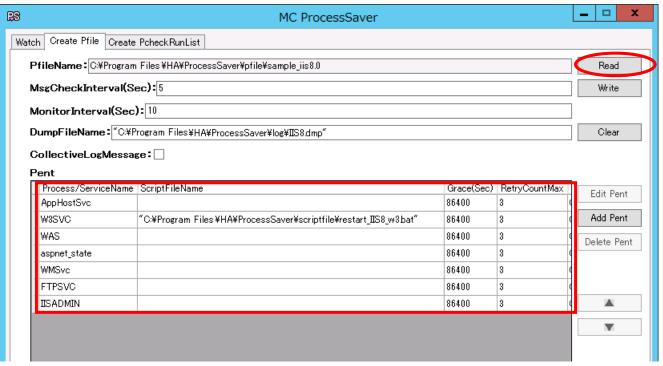


図12 『Create Pfile』

13-4-3. 監視しないサービスの削除

(1)『Create Pfile』 の「Pent] から、監視しないサービスを 選択し、 Delete Pent を押して削除してください。

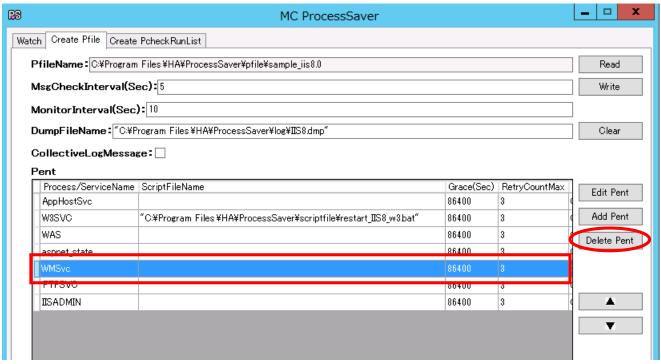


図13 『Create Pfile』

13-4-4. Pfile の保存

(1) 『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\program Files\processSaver\pfile\processSaver\pfile\processSaver\pfile\processSaver\proces\processSaver\proces\processSaver\proces\pr

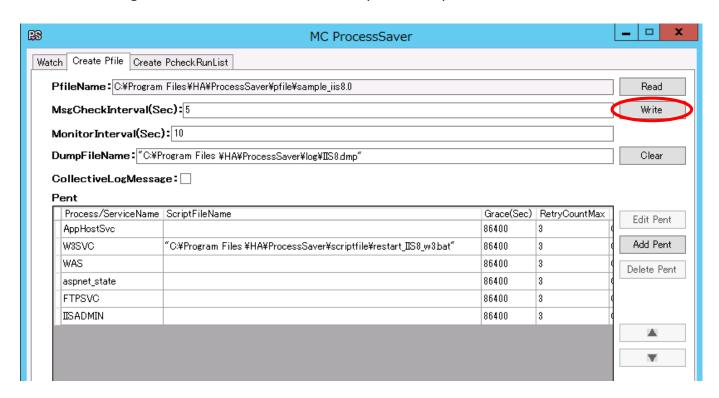


図14 『Create Pfile』

14. Microsoft SQL Server 2008 の監視事例

・本事例は Microsoft SQL Server 2008 を使用しています。 Microsoft SQL Server にて提供されているサービスを監視する場合を紹介します。

Microsoft SQL Server で提供されるサービスは以下のとおりですが、 インストール時に選択する機能によって、登録されないサービスがあります。

- (1)システム一意 Microsoft SOL Server 一意のサービスのため、複数登録されません。
 - SQLBrowser
 - SQLWriter
 - MsDtsServer100
 - MSSOLServerADHelper100
- (2) インスタンス インスタンス数分サービスが登録されます。
 - MSSQLSERVER
 - SQLSERVERAGENT
 - MSSQLFDLauncher
 - MSSQLServerOLAPService
 - ReportServer



(2) (続き)

インスタンスのサービス名はインストール時のインスタンス名の設定方法によって、 以下のようになります。

既定のインスタンスの場合	名前つきインスタンスの場合
MSSQLSERVER	MSSQL\$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	SQLAgent\$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	MSSQLFDLauncher\$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	MSOLAP\$【インスタンス名】
ReportServer	ReportServer\$【インスタンス名】

* 本書ではインスタンス名は既定のインスタンスで設定したものとします。

14-1. システム一意

14-1-1. 概要

- SQLBrowser
- SQLWriter

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Browser	SQL Server VSS Writer
サービス名	SQLBrowser	SQLWriter
常駐プロセス	sqlbrowser.exe	sqlwriter.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	サービスを再起動する	何もしない
依存関係	無し	無し

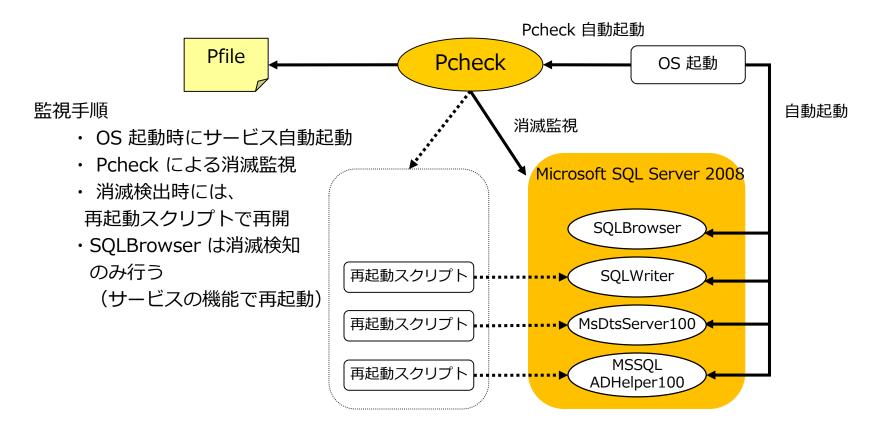
スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

14-1-1. (続き)

- MsDtsServer100
- MSSQLServerADHelper100

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Integration Services 10.0	SQL Active Directory Helper Service
サービス名	MsDtsServer100	MSSQLServerADHelper100
常駐プロセス	MsDtsSrvr.exe	SQLADHLP.EXE
スタートアップ	自動	無効
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

* スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。



14-1-2. Pfile

Pfile <sample sqlserver system>

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。 本 Pfile は MSSOLServerADHelper100 の監視はコメントアウトしていますので MSSQLServerADHelper100 を監視するためには Pfile を変更する必要があります。 その場合、「14-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver system.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

##

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCm d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service

SOLWriter, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart sglwriter.bat"}, 86400, 3, Continue, Service MsDtsServer100, "C: \Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart msdtsserver.bat", 86400, 3, Continue, Service #MSSOLServerADHelper100,"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart adhelper.bat",86400,3,Continue,Service



14-1-3. 再起動スクリプト

SQLWriter <restart_sqlwriter.bat>

```
@echo off
rem SQLWriter の再起動スクリプトです。
                                sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start SQLWriter
exit
```

MsDtsServer100 < restart msdtsserver.bat >

```
@echo off
\frac{1}{1} rem MsDtsServer100 の再起動スクリプトです。\frac{1}{1} sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start MsDtsServer100
exit
```

MSSQLServerADHelper100 < restart_adhelper.bat>

```
@echo off
 rem MSSQLServerADHelper100 の再起動スクリプトです。 \begin{cases} 
sc start MSSQLServerADHelper100
   exit
```

14-2. インスタンス

14-2-1. 概要

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT

タイプ		Service	Service
既定インスタンス の場合 表示名		SQL Server (MSSQLSERVER)	SQL Server Agent (MSSQLSERVER)
衣 小石	名前つきインスタ ンスの場合	SQL Server (【インスタンス名】)	SQL Server Agent (【インスタンス名】)
サービス	既定インスタンス の場合	MSSQLSERVER	SQLSERVERAGENT
名	名前つきインスタ ンスの場合	MSSQL\$【インスタンス名】	SQLAgent\$【インスタンス名】
常駐プロセス		sqlserver.exe	SQLAGENT.EXE
スタートア	ップ	自動	手動
回復機能		何もしない	何もしない
依存するサービス		無し	SQL Server (【インスタンス名】)
依存される	サービス	SQL Server Agent (【インスタンス名】)	無し

14-2-1. (続き)

- MSSQLFDLauncher
- MSSQLServerOLAPService

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (MSSQLSERVER)	SQL Server Analysis Services (MSSQLSERVER)
水 小石	名前つきインスタンスの 場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (【インスタンス名】)	SQL Server Analysis Services (【インスタンス名】)
+ ビフタ	既定インスタンスの場合	MSSQLFDLauncher	MSSQLServerOLAPService
サービス名	名前つきインスタンスの 場合	MSSQLFDLauncher\$【インスタンス名】	MSOLAP\$【インスタンス名】
常駐プロセス		fdlauncher.exe fdhost.exe	msmdsrv.exe
スタートアップ		手動	自動
回復機能		何もしない	何もしない
依存関係		無し	無し

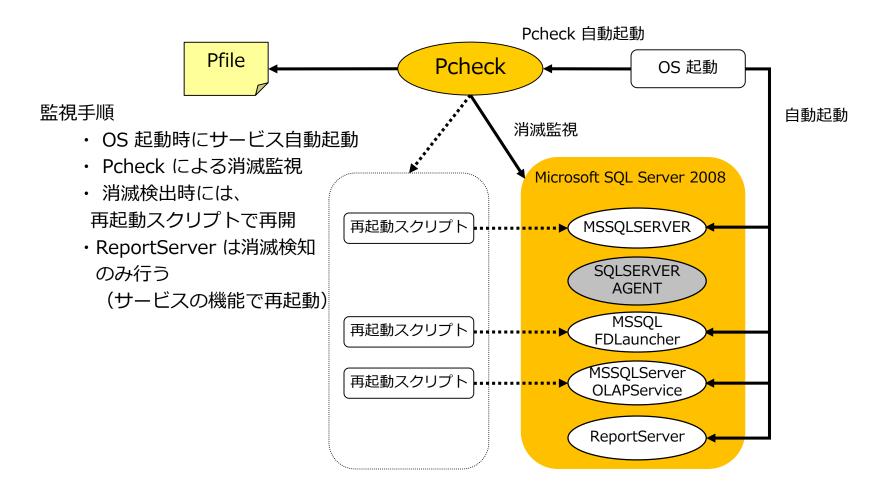
MSSQLFDLauncher は MSSQLSERVER 起動時に起動されます。

14-2-1. (続き)

ReportServer

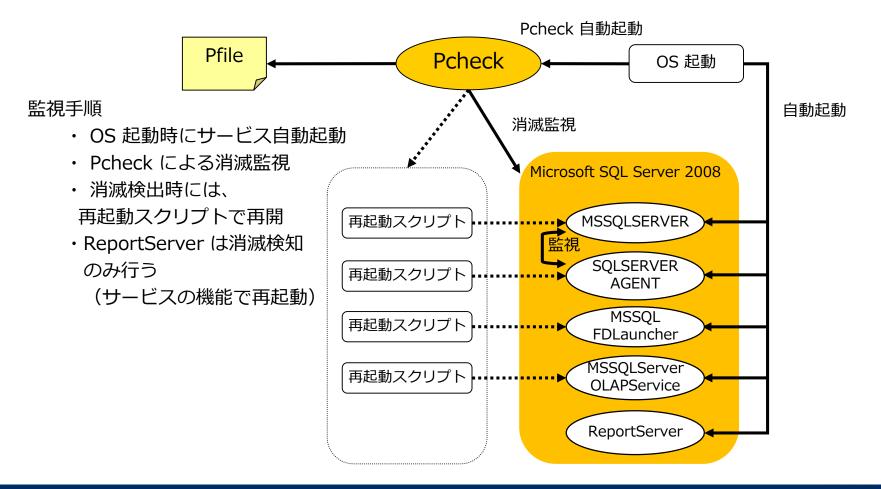
タイプ		Service	
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (MSSQLSERVER)	
12八七	名前つきインスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (【インスタンス名】)	
サービス名	既定インスタンスの場合	ReportServer	
リーレス石	名前つきインスタンスの場合	ReportServer\$【インスタンス名】	
常駐プロセス	ζ	ReportingServicesService.exe	
スタートアップ		自動	
回復機能		サービスを再起動する	
依存関係		無し	

SQLSERVERAGENT 未使用時



SOLSERVERAGENT 使用時

SQLSERVERAGENT を使用している場合、MSSQLSERVER と SQLSERVERAGENT は相互に監視を行い、異常時には、 起動しているサービスが異常終了したサービスを起動します。ただし、両サービスが停止した場合は、再起動が行われないため、 ProcessSaver にて各サービスを監視し、両サービス停止時に再起動を行います。



(続き)

14-2-2. Pfile

Pfile <sample sqlserver instance notuse agent>

本 Pfile は SOLSERVERAGENT を使用しない場合の Pfile です。

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。

PARAM

MsgCheckInterval 5 MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver instance notuse agent.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

##

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCmd; In cludeStrings; RestartWaitTime; RestartTimeOut; PnameFullMatch

MSSQLSERVER, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart sglserver.bat",86400,3,Continue,Service

MSSQLFDLauncher, "C: \text{YProgram Files} \text{HA}\text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{Frolauncher.bat"}, 86400, 3, Continue, Service

MSSQLServerOLAPService, "C:\frac{\text{Y}}{\text{Program Files}}\frac{\text{HA}}{\text{P}}{\text{ProcessSaver}}\frac{\text{S}}{\text{S}}{\text{vice}}\text{logram Files}\frac{\text{HA}}{\text{P}}{\text{Program Files}}\frac{\text{HA}}{\text{P}}{\text{ProcessSaver}}\text{\text{S}}{\text{circle}}\text{Vice}

ReportServer,,86400,0,Continue,Service



(続き)

14-2-2. (続き)

Pfile <sample sqlserver instance use agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用する場合の Pfile です。

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。

PARAM

5 MsqCheckInterval MonitorInterval 10

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver instance use agent.dmp" DumpFileName

UpMessageReduceMode disable

PENT

##

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCmd; In cludeStrings; RestartWaitTime; RestartTimeOut; PnameFullMatch

MSSQLSERVER, "C: Program Files HA Process Saver Scriptfile Frestart sqlserver useagent.bat", 86400, 3, Continue, Service SQLSERVERAGENT,"C:\program Files\processSaver\proces\processSaver\processSaver\processSaver\proces\proces\processSaver\proces\p MSSQLFDLauncher, "C: \text{YProgram Files\text{\text{HA\text{\text{4}}}} ProcessSaver\text{\text{\text{scriptfile}\text{\text{\text{\text{\text{Y}}}}} fdlauncher.bat", 86400, 3, Continue, Service MSSQLServerOLAPService, "C: \(\frac{2}{2}\) Program Files\(\frac{2}{2}\) HA\(\frac{2}{2}\) ProcessSaver\(\frac{2}{2}\) scriptfile\(\frac{2}{2}\) restart olapservice. bat", 86400, 3, Continue, Service

ReportServer,,86400,0,Continue,Service



14-2-2. (続き)

名前付きインスタンスで作成されたサービスを監視する場合、使用する Pfile を 以下のように変更してください。

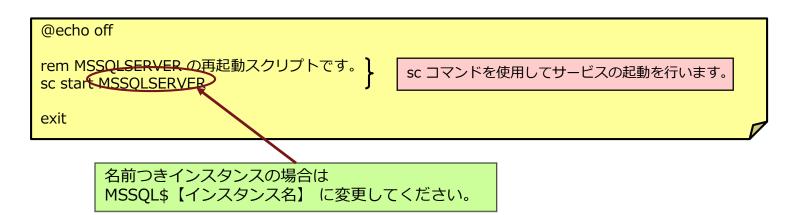
```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
MonitorInterval
                   10
DumpFileName
                     "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sglserver instance use agent.dmp"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCmd; In
cludeStrings; RestartWaitTime; RestartTimeOut; PnameFullMatch
MSSQLSERVER, "C: Program Files HA Process Saver Scriptfile Frestart sqlserver useagent.bat", 86400, 3, Continue, Service
SOLSERVERAGENT, "C: ¥Program Files ¥HA¥Process Saver ¥script file ¥restart sqlagent.bat", 86400, 3, Continue, Service
MSSQLFDLauncher, "C: ¥Program Files ¥HA¥ProcessSaver ¥script file ¥restart fdlauncher.bat", 86400, 3, Continue, Service
MSSQLServerOLAPService, "Q" *Program Files*HA*ProcessSaver** scriptfile*restart olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

```
名前つきインスタンスのサービスを監視する場合は
各行の Process/ServiceName をそれぞれ以下のように変更してください。
                                 MSSOL$【インスタンス名】
 MSSOLSERVER
 SQLSERVERAGENT
                                 SQLAgent$【インスタンス名】
 MSSQLFDLauncher
                                 MSSQLFDLauncher$ 【インスタンス名】
                                 MSOLAP$【インスタンス名】
 MSSQLServerOLAPService
                             \rightarrow
                                 ReportServer$【インスタンス名】
 ReportServer
                             \rightarrow
```

14-2-3. 再起動スクリプト

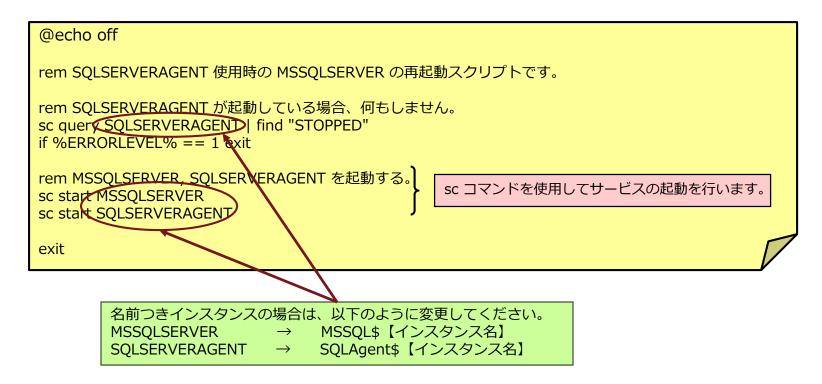
本 スクリプトは既定のインスタンスで作成されたサービスを起動します。 名前つきインスタンスで作成されたサービスを起動するにはスクリプトを変更する必要があります。

 MSSQLSERVER < restart sqlserver.bat > 本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver_instance_notuse_agent> で使用します。



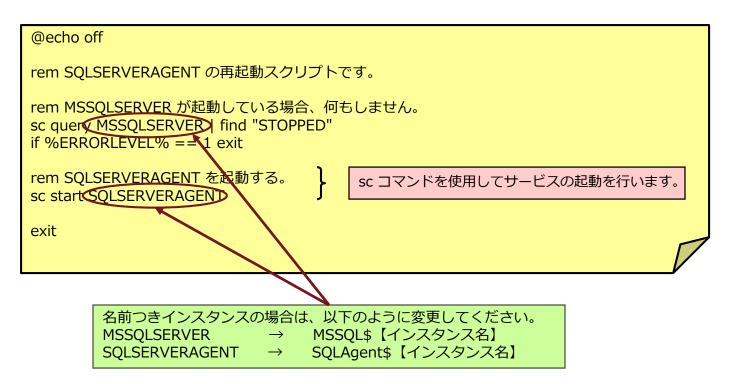
14-2-3. (続き)

 MSSQLSERVER < restart sqlserver useagent.bat > 本スクリプトは Pfile <sample sqlserver instance use agent> で使用します。



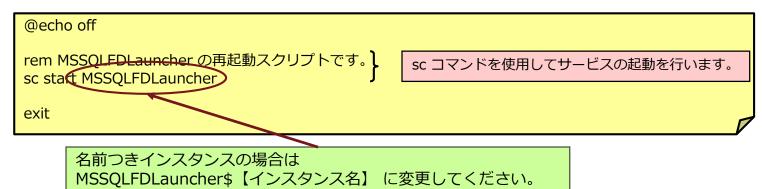
14-2-3. (続き)

 SQLSERVERAGENT < restart sqlagent.bat > 本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver_instance_use_agent> で使用します。

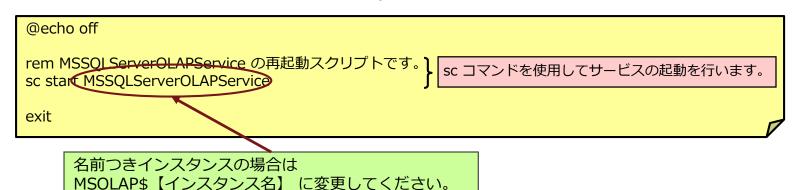


14-2-3. (続き)

MSSQLFDLauncher <restart fdlauncher.bat>



MSSQLServerOLAPService<restart olapservice.bat>



14-3. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- ・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- MSSQLServerADHelper100 サービスの監視については、コメントアウトしています。 MSSQLServerADHelper100 サービスを使用、監視する場合は、Pfile を書き換えて、 コメントインしてください。
- ・SQLSERVERAGENT サービスを使用する場合、SQLSERVERAGENT サービスが MSSOLSERVER サービスを監視、再起動します。ProcessSaver による監視が 不要な場合は Pfile から削除してください。

以降、システム一意のサービスの監視を削除する場合の Pfile の書き換え手順を説明します。 インスタンスのサービスの監視を削除する場合は、使用する Pfile

<C:\Program

Files\text{\text{Files}\text{\text{HA}\text{\text{\text{ProcessSaver}\text{\text{pfile}\text{\text{\text{sample}}}} sqlserver instance notuse agent> または

<C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample\sqlserver instance use agent> を「14-3-2. Pfile の読み込み」 以降の手順にしたがい編集してください。

Pfile 書き換え手順

14-3-1. Pfile の直接編集



14-3-2. Pfile の読み込み



14-3-3. 監視しないサービスの削除



14-3-4. Pfile の保存

14-3-1. Pfile の直接編集

(1) MSSQLServerADHelper100 を監視する場合、

テキストエディタなどで

Pfile <C:\frac{\text{YProgram Files}}{\text{HA}}ProcessSaver\frac{\text{Prile}}{\text{sample sqlserver system}> を 開き、 MSSQLServerADHelper100 の行の # を削除し、コメントインしてください。

PARAM ##### 5 MsqCheckInterval MonitorInterval 10 "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver system.dmp" DumpFileName UpMessageReduceMode disable ##### PENT ##### Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; Clea rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch SQLBrowser, "C: \times \text{HA}\text{Program Files} \text{HA}\text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{restart sqlbrowser.bat", 86400, 3, Continue, Service SQLWriter, "C: \text{\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\exittitt{\$\text{\$\}\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{ MsDtsServer100, "C: \Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart msdtsserver.bat", 86400, 3, Continue, Service #MSSQLServerADHelper100,"C:\Program Files*HA*ProcessSaver*scriptfile*restart adhelper.bat",86400,3,Continue,Service # を削除してコメントインしてください。

(続き) 14.

14-3-2. Pfile の読み込み

(1) 『Create Pfile』で Read を押して Pfile <C:\frac{\text{Y} \text{Program Files} \frac{\text{HA} \text{Y} \text{Process} \text{Saver} \frac{\text{File}}{\text{sample}} \text{sqlserver}_system> の読み込みを行ってください。

下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、 Page 16 の手順により Pfile を再取得し、もう一度やり直してください。

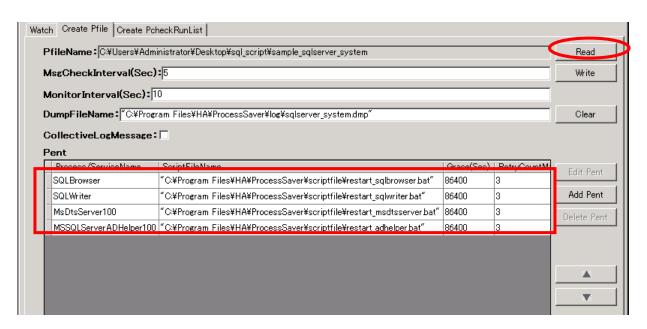
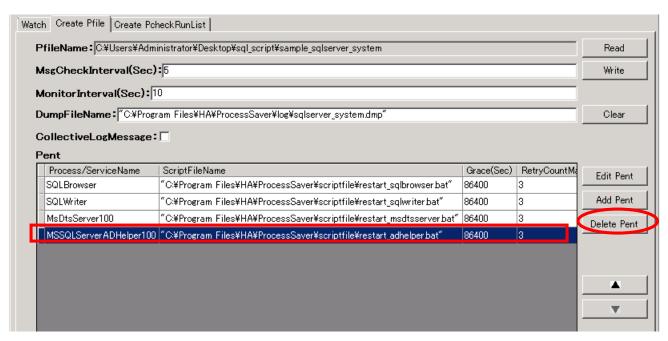


図15 『Create Pfile』

14-3-3. 監視しないサービスの削除

『Create Pfile』 の「Pent]から 監視しないサービスを選択し、 (1)Delete Pent を押して削除してください。



Create Pfile 図16

14-3-4. Pfile の保存

(1)『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\program Files\processSaver\pfile\processSaver\pfile\sample_sqlserver_system> を保存してください。

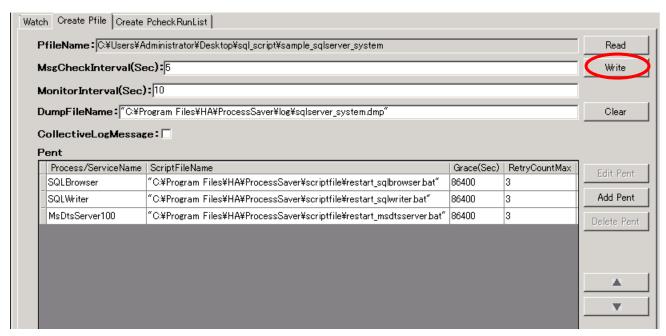


図17 **Create Pfile**

15. Microsoft SQL Server 2008 R2 の監視事例

・本事例は Microsoft SQL Server 2008 R2 を使用しています。 Microsoft SQL Server にて提供されているサービスを監視する場合を紹介します。

Microsoft SQL Server で提供されるサービスは以下のとおりですが、 インストール時に選択する機能によって、登録されないサービスがあります。

- (1)システム一意 Microsoft SOL Server 一意のサービスのため、複数登録されません。
 - SQLBrowser
 - SQLWriter
 - MsDtsServer100
 - MSSOLServerADHelper100
- (2) インスタンス インスタンス数分サービスが登録されます。
 - MSSQLSERVER
 - SQLSERVERAGENT
 - MSSQLFDLauncher
 - MSSQLServerOLAPService
 - ReportServer

(2) (続き)

インスタンスのサービス名はインストール時のインスタンス名の設定方法によって、 以下のようになります。

既定のインスタンスの場合	名前つきインスタンスの場合
MSSQLSERVER	MSSQL\$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	SQLAgent\$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	MSSQLFDLauncher\$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	MSOLAP\$【インスタンス名】
ReportServer	ReportServer\$【インスタンス名】

* 本書ではインスタンス名は既定のインスタンスで設定したものとします。

15-1. システム一意

15-1-1. 概要

- SQLBrowser
- SQLWriter

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Browser	SQL Server VSS Writer
サービス名	SQLBrowser	SQLWriter
常駐プロセス	sqlbrowser.exe	sqlwriter.exe
スタートアップ	無効	自動
回復機能	サービスを再起動する	何もしない
依存関係	無し	無し

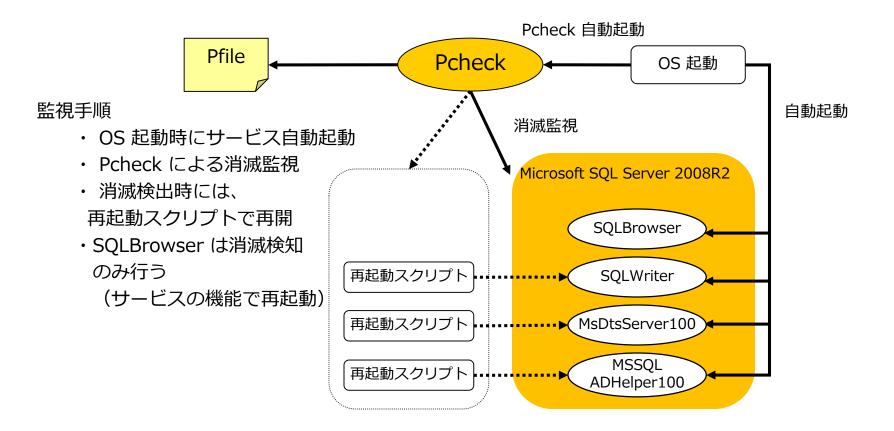
* スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

15-1-1. (続き)

- MsDtsServer100
- MSSQLServerADHelper100

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Integration Services 10.0	SQL Active Directory Helper Service
サービス名	MsDtsServer100	MSSQLServerADHelper100
常駐プロセス	MsDtsSrvr.exe	SQLADHLP.EXE
スタートアップ	自動	無効
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

* スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。



15-1-2. Pfile

Pfile <sample sqlserver2008r2 system>

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

本 Pfile は SQLBrower、MSSQLServerADHelper100 の監視はコメントアウトしていますので

SOLBrower、MSSOLServerADHelper100 を監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「15-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval 10

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2008r2 system.dmp" DumpFileName

UpMessageReduceMode

PENT

##

Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCm d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service

SOLWriter, "C: \times \text{Program Files \text{\text{HA}} Process Saver \text{\tin}\text{\texi{\texi}\text{\text{\text{\tin\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\texi}\x MsDtsServer100, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart msdtsserver.bat",86400,3,Continue,Service #MSSOLServerADHelper100,"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart adhelper.bat",86400,3,Continue,Service



15-1-3. 再起動スクリプト

SQLWriter <restart_sqlwriter.bat>

```
@echo off
rem SQLWriter の再起動スクリプトです。
                                sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start SQLWriter
exit
```

MsDtsServer100 < restart msdtsserver.bat >

```
@echo off
sc start MsDtsServer100
exit
```

MSSQLServerADHelper100 < restart_adhelper.bat>

```
@echo off
{\sf rem\ MSSQLServerADHelper100\ }の再起動スクリプトです。lacksymbol{\clip} {\sf lsc} コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start MSSQLServerADHelper100
exit
```

15-2. インスタンス

15-2-1. 概要

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT

タイプ		Service	Service
既定インスタンスの 場合 名前つきインスタン スの場合		SQL Server (MSSQLSERVER)	SQL Server Agent (MSSQLSERVER)
		SQL Server (【インスタンス名】)	SQL Server Agent (【インスタンス名】)
サービ	既定インスタンスの 場合 MSSQLSERVER SQLSERVER		SQLSERVERAGENT
	名前つきインスタン スの場合	MSSQL\$【インスタンス名】	SQLAgent\$【インスタンス名】
常駐プロセス		sqlserver.exe	SQLAGENT.EXE
スタート	アップ	自動	手動
回復機能		何もしない	何もしない
依存するサービス		無し	SQL Server (【インスタンス名】)
依存されるサービス		SQL Server Agent (【インスタンス名】)	無し

15-2-1. (続き)

- MSSQLFDLauncher
- MSSQLServerOLAPService

タイプ		Service	Service
丰 二夕	既定インスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (MSSQLSERVER)	SQL Server Analysis Services (MSSQLSERVER)
表示名名名前つきインスタンスの場合		SQL Full-text Filter Daemon Launcher (【インスタンス名】)	SQL Server Analysis Services (【インスタンス名】)
		MSSQLServerOLAPService	
サービス名	名前つきインスタンスの場合	MSSQLFDLauncher\$【インスタンス 名】	MSOLAP\$【インスタンス名】
常駐プロセス		fdlauncher.exe fdhost.exe	msmdsrv.exe
スタートアップ		手動	自動
回復機能		何もしない	何もしない
依存関係		無し	無し

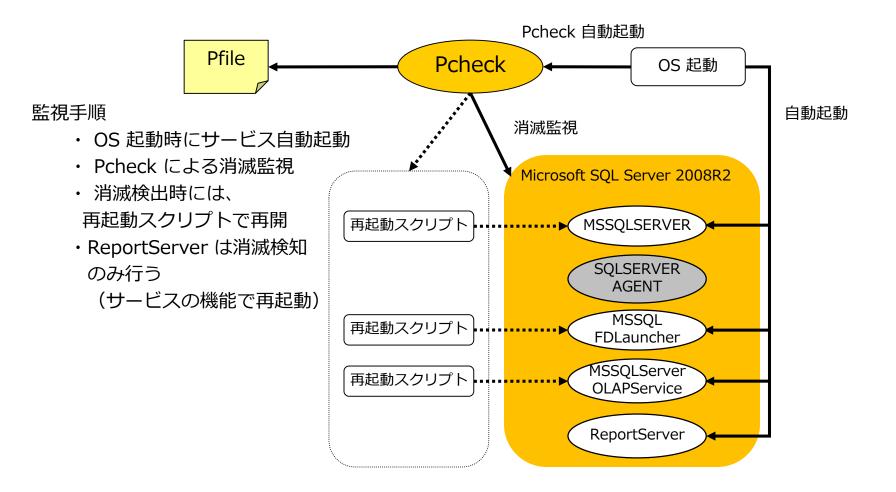
MSSQLFDLauncher は MSSQLSERVER 起動時に起動されます。

15-2-1. (続き)

ReportServer

タイプ		Service	
= - <i>a</i>	既定インスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (MSSQLSERVER)	
表示名	名前つきインスタンスの場 合	SQL Server Reporting Services (【インスタンス名】)	
サービス名	既定インスタンスの場合	ReportServer	
	名前つきインスタンスの場 合	ReportServer\$【インスタンス名】	
常駐プロセス		ReportingServicesService.exe	
スタートアップ		自動	
回復機能		サービスを再起動する	
依存関係		無し	

SQLSERVERAGENT 未使用時

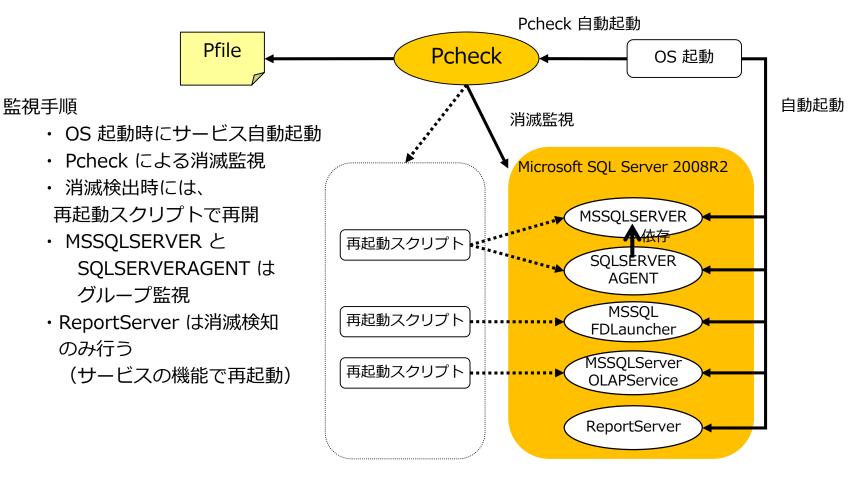


SOLSERVERAGENT 使用時

SQLSERVERAGENT を使用している場合、SQLSERVERAGENT は、MSSQLSERVER に依存するため、 MSSQLSERVER 異常終了時には、SQLSERVERAGENT も停止します。

ただし、SQLSERVERAGENT 異常終了時には、MSSQLSERVER は停止しません。

ProcessSaver にて各サービスを監視し、停止したサービスの再起動を行います。



15-2-2. Pfile

Pfile <sample sqlserver2008r2 instance notuse agent>

- 本 Pfile は SOLSERVERAGENT を使用しない場合の Pfile です。
- 本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
- 本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
- 本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を

監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「15-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval 10

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2008r2_instance_notuse_agent.dmp" DumpFileName

UpMessageReduceMode disable

PFNT

##Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCmd ;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

MSSOLSERVER, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart sqlserver,bat",86400,3.Continue,Service MSSQLFDLauncher, "C: \text{YProgram Files} \text{HA}\text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{Frolauncher.bat"}, 86400, 3, Continue, Service MSSOLServerOLAPService, "C: \text{\text{Y}} Program Files\text{\text{H}} A\text{\text{\text{P}}} ProcessSaver\text{\text{\text{S}}} solver\text{\text{\text{I}}} classified by the solution of #ReportServer,,86400,0,Continue,Service

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、 本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。 ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から 再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の 値を変更する必要があります。

RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを 確認してから、Restart ボタンを押してください。

15-2-2. (続き)

Pfile <sample sqlserver2008r2 instance use agent>

- 本 Pfile は SOLSERVERAGENT を使用する場合の Pfile です。
- 本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
- 本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
- 本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を

監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「15-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsaCheckInterval 5 MonitorInterval 10

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2008r2_instance_use_agent.dmp" DumpFileName

UpMessageReduceMode disable

PFNT

##Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCmd ;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

MSSQLSERVER, "C: ¥Program

Files\(\pmax\)HA\(\pmax\)Process\(\pmax\)Saver\(\pmax\)scriptfile\(\pmax\)restart sglserver useagent.bat",86400,3,Continue,Service;Group\(\pmax\)group SQLSERVERAGENT, "C: ¥Program

Files\(\pmax\)HA\(\pmax\)ProcessSaver\(\pmax\)scriptfile\(\pmax\)restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;Group\(\pmax\)group MSSQLFDLauncher, "C: \times \text{HA} \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{Frogram Files}} \text{HA} \text{\text{ProcessSaver}} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{Frogram Files}} \text{\text{HA}} \text{\text{HA}} \text{\text{Frogram Files}} \text{\text{HA}} \text{\text{HA}} \text{\text{Frogram Files}} \text{\text{\text{HA}}} \text{\text{Frogram Files}} \text{\text{\text{HA}}} \text{\text{Frogram Files}} \text{\text{HA}} \text{\text{\text{ MSSOLServerOLAPService, "C:\frac{1}{2}Program Files\frac{1}{2}HA\frac{1}{2}ProcessSaver\frac{1}{2}Scriptfile\frac{1}{2}restart olapservice.bat".86400.3.Continue.Service #ReportServer,,86400,0,Continue,Service

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、

本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。

ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から 再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の 値を変更する必要があります。

RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを 確認してから、Restart ボタンを押してください。

15-2-2. (続き)

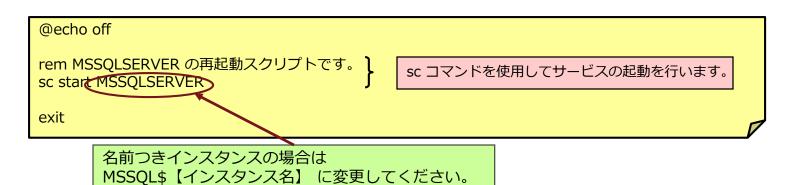
名前付きインスタンスで作成されたサービスを監視する場合、使用する Pfile を 以下のように変更してください。

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
MonitorInterval
                                                                                                  10
DumpFileName
                                                                                                             "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2008r2 instance use agent.dmp"
UpMessageReduceMode disable
 ##### PENT #####
 ##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTaq; ClearCmd; In
cludeStrings; RestartWaitTime; RestartTimeOut; PnameFullMatch
MSSQLSERVER, "C: ¥Program
Files\(\text{HA\(\text{ProcessSaver\(\text{\(\text{Server}\)}}\) criptfile\(\text{restart sqlserver useagent.bat"}\),86400,3,Continue,Service;GroupTag=sglserver2008r2group
SQLSERVERAGENT, "C: ¥Program
Files\(\pmax\)HA\(\pmax\)ProcessSaver\(\pmax\)scr\(\pmax\)ptfile\(\pmax\)restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;Group\(\pmax\)gasqlserver2008r2group
MSSQLFDLauncher, "C: \times \text{YProgram Files \text{\text{HA\text{\text{\text{ProcessSaver\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tince}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\texi}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\ti}\xit
MSSQLServerOLAPService. C:\frac{1}{1000}C:\frac{1}{1000}ProcessSaver\frac{1}{1000}Service. Data (1) department of the control 
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

```
名前つきインスタンスのサービスを監視する場合は
各行の Process/ServiceName をそれぞれ以下のように変更してください。
                         MSSOL$【インスタンス名】
 MSSQLSERVER
 SQLSERVERAGENT
                         SQLAgent$【インスタンス名】
                     → MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
 MSSQLFDLauncher
                          MSOLAP$【インスタンス名】
 MSSOLServerOLAPService
                     \rightarrow
                          ReportServer$【インスタンス名】
 ReportServer
                      \rightarrow
```

15-2-3. 再起動スクリプト

 MSSQLSERVER < restart_sqlserver.bat> 本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver2008r2_instance_notuse_agent> で使用します。



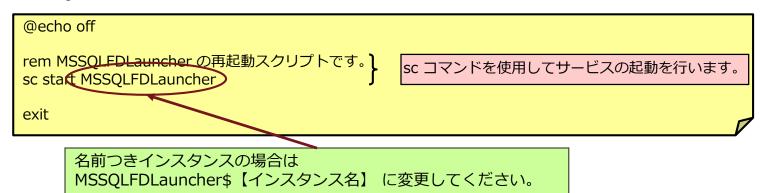
15-2-3. (続き)

 MSSQLSERVER < restart sqlserver useagent.bat > 本スクリプトは Pfile <sample sqlserver2008r2 instance use agent> で使用します。

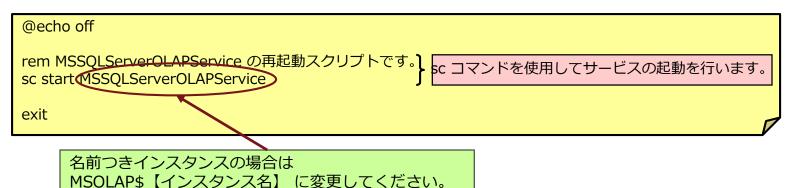


15-2-3. (続き)

MSSQLFDLauncher <restart_fdlauncher.bat>



MSSQLServerOLAPService<restart olapservice.bat>



15-3. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- ・ SQLBrowser、MSSQLServerADHelper100、ReportServer サービスの監視については、 コメントアウトしています。SQLBrowser、MSSQLServerADHelper100、ReportServer サービスを使用、監視する場合は、Pfile を書き換えて、コメントインしてください。
- ・SQLSERVERAGENT サービスを使用する場合、 SQLSERVERAGENT サービス が MSSQLSERVER サービスに依存します。ProcessSaver による監視が不要な場合は Pfile から削除してください。

以降、システム一意のサービスの監視を削除する場合の Pfile の書き換え手順を説明します。

インスタンスのサービスの監視を削除する場合は、使用する Pfile

<C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample sqlserver2008r2 instance notuse agent> または

<C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample sqlserver2008r2 instance use agent> を 「15-3-2. Pfile の読み込み」 以降の手順にしたがい編集してください。

Pfile 書き換え手順

15-3-1. Pfile の直接編集



15-3-2. Pfile の読み込み



15-3-3. 監視しないサービスの削除



15-3-4. Pfile の保存

15-3-1. Pfile の直接編集

(1) SOLBrowser、MSSOLServerADHelper100 を監視する場合、 テキストエディタなどで

Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample sqlserver2008r2 system> を 開き、 SOLBrowser、MSSOLServerADHelper100 の行の # を削除し、コメントインしてください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2008r2_system.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

を削除してコメントインしてください。

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(See), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; Clea rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartFimeOut;PnameFullMatch

SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service

SOLWriter, "C: \text{\text{\$\exiting{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exiting{\$\text{\$\ext{\$\text{\$}\exitin{\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\}}\exititt{\$\text{\$\exititt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\}\exititt{\$\text{\$\text{\$\}

MsDtsServer100, "C: *Program Files * HA * Process Saver * script file * restart msdtsserver. bat ", 86400, 3, Continue, Service

#MSSQLServerADHelper100,"C:\Program

Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart adhelper.bat".86400.3.Continue.Service

SQLBrows er サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで1分後に再起動されるため、 本テンプレートの SQLBrowser の行をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。 SQLBrows er を監視する場合で、消滅検知後すぐに RetryOver にしたくない場合は、SQLBrowser サービスの「プロパティ」から 再起動時間を変更していただくか、SQLBrows er サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、 または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。

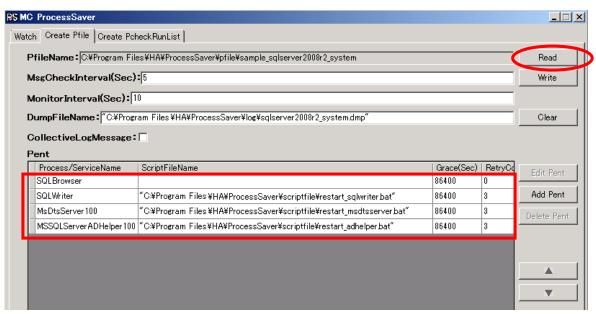
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために SQLBrowser サービスが 1分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

15-3-2. Pfile の読み込み

(1)『Create Pfile』で Read を押して

> Pfile <C:\frac{\text{Y} Program Files\frac{\text{H}A\frac{\text{Y} ProcessSaver\frac{\text{Y} pfile\frac{\text{S} sample sqlserver2008r2 system>} の読み込みを行ってください。

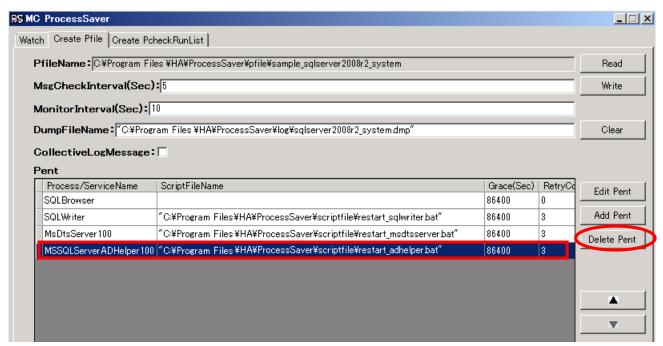
下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、 Page 16 の手順により Pfile を再取得し、もう一度やり直してください。



Create Pfile 図18

15-3-3. 監視しないサービスの削除

『Create Pfile』 の「Pent]から 監視しないサービスを選択し、 (1)Delete Pent を押して削除してください。



Create Pfile 図19

15-3-4. Pfile の保存

『Create Pfile』で Write を押して (1) Pfile <C:\frac{\text{Y}}{\text{P}}rogram Files\frac{\text{H}}{\text{A}}\frac{\text{P}}{\text{P}}rocessSaver\frac{\text{P}}{\text{file}}\frac{\text{\text{S}}}{\text{s}} sample sglserver2008r2 system> を保存してください。

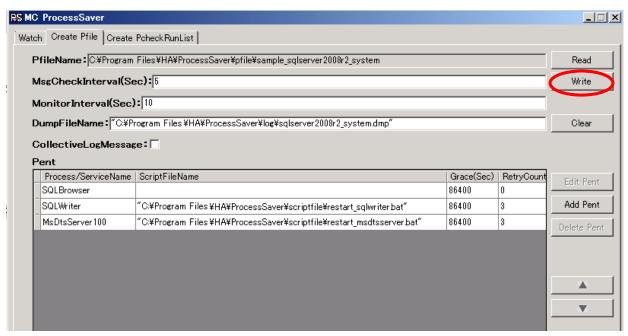


図20 **Create Pfile**

16. Microsoft SQL Server 2012 の監視事例

・本事例は Microsoft SQL Server 2012 ServicePack1 を使用しています。 Microsoft SQL Server にて提供されているサービスを監視する場合を紹介します。

Microsoft SQL Server で提供されるサービスは以下のとおりですが、 インストール時に選択する機能によって、登録されないサービスがあります。

- (1)システム一意 Microsoft SOL Server 一意のサービスのため、複数登録されません。
 - SOLBrowser
 - SQLWriter
 - MsDtsServer110
 - SQL Server Distributed Replay Client
 - SQL Server Distributed Replay Controller
- (2) インスタンス インスタンス数分サービスが登録されます。
 - MSSQLSERVER
 - SQLSERVERAGENT
 - MSSQLFDLauncher
 - MSSQLServerOLAPService
 - ReportServer



(2) (続き)

インスタンスのサービス名はインストール時のインスタンス名の設定方法によって、 以下のようになります。

既定のインスタンスの場合	名前つきインスタンスの場合
MSSQLSERVER	MSSQL\$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	SQLAgent\$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	MSSQLFDLauncher\$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	MSOLAP\$【インスタンス名】
ReportServer	ReportServer\$【インスタンス名】

* 本書ではインスタンス名は既定のインスタンスで設定したものとします。

16-1. システム一意

16-1-1. 概要

- SQLBrowser
- SQLWriter

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Browser	SQL Server VSS Writer
サービス名	SQLBrowser	SQLWriter
常駐プロセス	sqlbrowser.exe	sqlwriter.exe
スタートアップ	無効	自動
回復機能	サービスを再起動する	何もしない
依存関係	無し	無し

スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

16-1-1. (続き)

MsDtsServer110

タイプ	Service
表示名	SQL Server Integration Services 11.0
サービス名	MsDtsServer110
常駐プロセス	MsDtsSrvr.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	無し

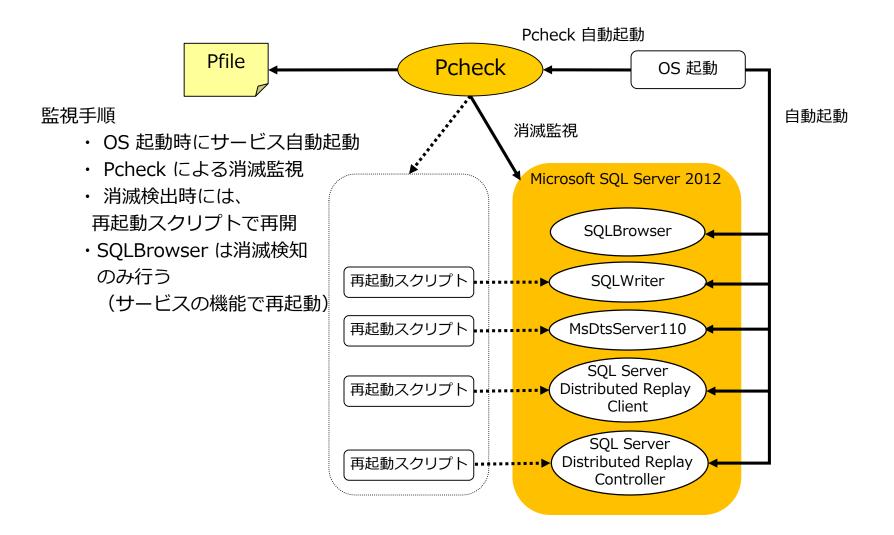
* スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

16-1-1. (続き)

- SQL Server Distributed Replay Client
- SQL Server Distributed Replay Controller

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Distributed Replay Client	SQL Server Distributed Replay Controller
サービス名	SQL Server Distributed Replay Client	SQL Server Distributed Replay Controller
常駐プロセス	DReplayClient.exe	DReplayController.exe
スタートアップ	手動	手動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	無し	無し

* スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。 また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。



16-1-2. Pfile

Pfile <sample sqlserver2012 system>

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

本 Pfile は SOLBrowser、SOL Server Distributed Replay Client、SOL Server Distributed Replay Controller の監視はコメントアウトしていますので

SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller を監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「16-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM ##### MsqCheckInterval MonitorInterval 10 DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2012_system.dmp" UpMessageReduceMode disable

PENT

##

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCm d:IncludeStrings:RestartWaitTime:RestartTimeOut:PnameFullMatch

#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service

SOLWriter, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart sglwriter.bat"}, 86400, 3, Continue, Service

MsDtsServer110, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart msdtsserver110.bat",86400,3,Continue,Service

#SQL Server Distributed Replay Client, "C:\Program

Files\(\frac{1}{2}\)HA\(\frac{1}{2}\)ProcessSaver\(\frac{1}{2}\)scriptfile\(\frac{1}{2}\)restart distributedreplayclient.bat".86400.3.Continue.Service

#SQL Server Distributed Replay Controller, "C:\Program

Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart distributedreplaycontroller.bat",86400,3,Continue,Service



16-1-3. 再起動スクリプト

SQLWriter <restart_sqlwriter.bat>

```
@echo off
rem SQLWriter の再起動スクリプトです。
                                sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。
sc start SQLWriter
exit
```

MsDtsServer110 < restart_msdtsserver110.bat>

```
@echo off
exit
```

16-1-3. 再起動スクリプト (続き)

SQL Server Distributed Replay Client < restart_distributedreplayclient.bat>

@echo off

rem SQL Server Distributed Replay Client の再起動スクリプトです。 }

sc コマンドを使用して
サービスの起動を行います。
exit

SQL Server Distributed Replay Controller <restart_distributedreplaycontroller.bat>

@echo off

rem SQL Server Distributed Replay Controller の再起動スクリプトです。 }

sc コマンドを使用して
sc start "SQL Server Distributed Replay Controller"
exit

16-2. インスタンス

16-2-1. 概要

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server (MSSQLSERVER)	SQL Server エージェント (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server (【インスタンス名】)	SQL Server エージェント(【インスタンス 名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLSERVER	SQLSERVERAGENT
	名前つきインスタンスの場合	MSSQL\$【インスタンス名】	SQLAgent\$【インスタンス名】
常駐プロセス		sqlserver.exe	SQLAGENT.EXE
スタートアッ	プ	自動	手動
回復機能		何もしない	何もしない
依存するサービス		無し	SQL Server (【インスタンス名】)
依存されるサービス		SQL Server エージェント(【インスタン ス名】)	無し

16-2-1. (続き)

- MSSQLFDLauncher
- MSSQLServerOLAPService

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (MSSQLSERVER)	SQL Server Analysis Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (【インスタンス名】)	SQL Server Analysis Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLFDLauncher	MSSQLServerOLAPService
	名前つきインスタンスの場合	MSSQLFDLauncher\$【インスタンス 名】	MSOLAP\$【インスタンス名】
常駐プロセス		fdlauncher.exe fdhost.exe	msmdsrv.exe
スタートアップ		手動	自動
回復機能		何もしない	何もしない
依存関係		無し	無し

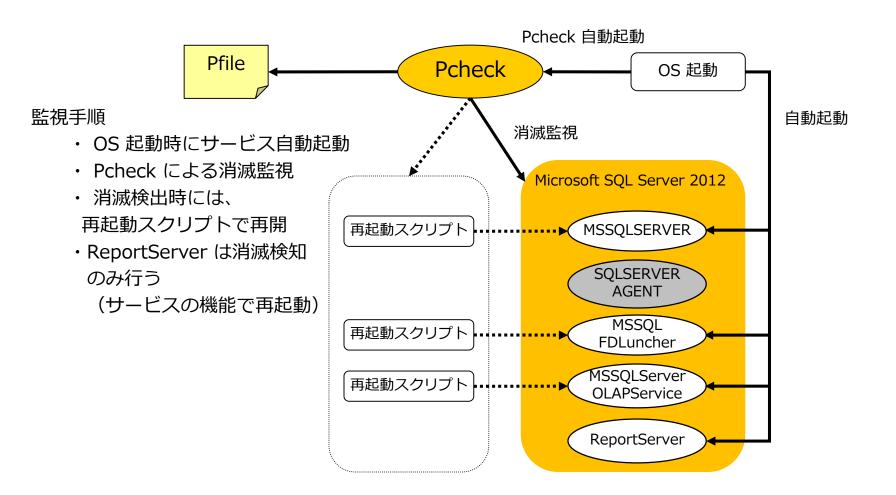
MSSQLFDLauncher は MSSQLSERVER 起動時に起動されます。

16-2-1. (続き)

ReportServer

タイプ		Service	
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (MSSQLSERVER)	
12八七	名前つきインスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (【インスタンス名】)	
既定インスタンスの場合 サービス名		ReportServer	
リーレス石	名前つきインスタンスの場合	ReportServer\$【インスタンス名】	
常駐プロセス		ReportingServicesService.exe	
スタートアップ		自動	
回復機能		サービスを再起動する	
依存関係		無し	

SQLSERVERAGENT 未使用時

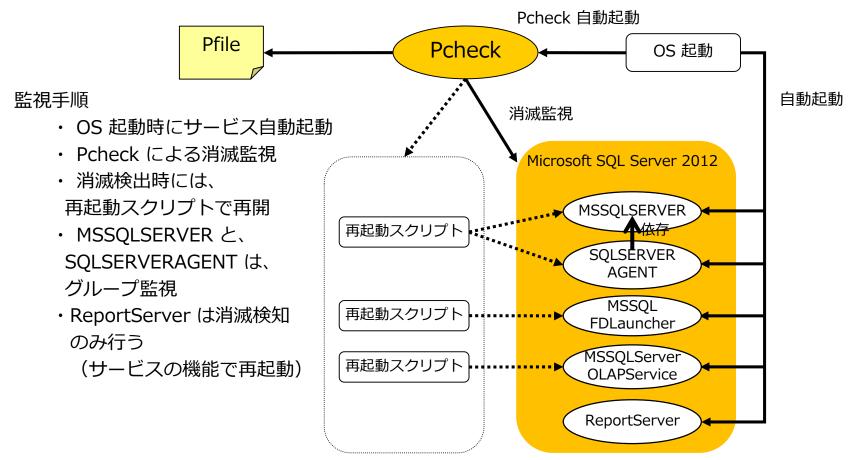


SOLSERVERAGENT 使用時

SQLSERVERAGENT を使用している場合、SQLSERVERAGENT は MSSQLSERVER に依存するため、 MSSQLSERVER 異常終了時に SQLSERVERAGENT も停止します。

ただし、SQLSERVERAGENT 異常終了時には、MSSQLSERVER は停止しません。

ProcessSaver にて各サービスを監視し、停止したサービスの再起動を行います。



16-2-2. Pfile

Pfile <sample sqlserver2012 instance notuse agent>

- 本 Pfile は SOLSERVERAGENT を使用しない場合の Pfile です。
- 本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
- 本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
- 本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を

監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「16-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval 5 MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2012 instance notuse agent.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd ;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

MSSQLSERVER, "C: *Program Files*HA*ProcessSaver*scriptfile*restart_sqlserver.bat",86400,3,Continue,Service

MSSQLFDLauncher, "C: \text{YProgram Files\text{\text{HA\text{\text{4}}}} ProcessSaver\text{\text{\text{scriptfile}\text{\text{\text{\text{\text{Y}}}}} fdlauncher.bat", 86400, 3, Continue, Service

MSSQLServerOLAPService, "C: \(\frac{2}{2}\) Program Files\(\frac{2}{2}\) HA\(\frac{2}{2}\) ProcessSaver\(\frac{2}{2}\) scriptfile\(\frac{2}{2}\) restart olapservice. bat", 86400, 3, Continue, Service

#ReportServer,,86400,0,Continue,Service

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、 本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。 ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から 再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の 値を変更する必要があります。

RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを 確認してから、Restart ボタンを押してください。

16-2-2. (続き)

Pfile <sample sqlserver2012 instance use agent>

- 本 Pfile は SOLSERVERAGENT を使用する場合の Pfile です。
- 本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
- 本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
- 本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を

監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「16-3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

PARAM

MsqCheckInterval MonitorInterval 10

DumpFileName "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2012_instance_use_agent.dmp"

UpMessageReduceMode disable

PENT

##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd ;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

MSSQLSERVER, "C: ¥Program

Files\(\frac{1}{2}\)HA\(\frac{1}{2}\)ProcessSaver\(\frac{1}{2}\)scriptfile\(\frac{1}{2}\)restart sqlserver useagent.bat",86400,3,Continue,Service\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}{2}\)group\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}\)Group\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}{2}\)Group\(\frac{1}2\)Group\(\frac{1}2\)Group\(\frac{1}2\)Group\(\frac{1}2\)Group\(\frac{1}2\ SQLSERVERAGENT, "C: ¥Program

Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart sqlserver useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group MSSQLFDLauncher, "C: \text{YProgram Files} \text{HA}\text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart_fdlauncher.bat"}, 86400, 3, Continue, Service MSSQLServerOLAPService, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart olapservice.bat", 86400, 3, Continue, Service #ReportServer,,86400,0,Continue,Service

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、

本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。 ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から 再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の 値を変更する必要があります。

RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを 確認してから、Restart ボタンを押してください。



16-2-2. (続き)

名前付きインスタンスで作成されたサービスを監視する場合、使用する Pfile を 以下のように変更してください。

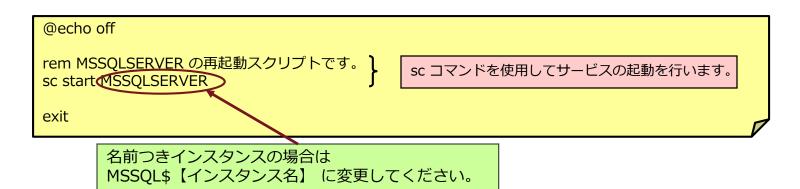
```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
MonitorInterval
                      10
DumpFileName
                        "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sqlserver2012 instance use agent.dmp"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTaq; ClearCmd; In
cludeStrings; RestartWaitTime; RestartTimeOut; PnameFullMatch
MSSQLSERVER, "C: ¥Program
Files\(\text{HA\(\text{ProcessSaver\(\text{\general}\)}\)screer\(\text{sqlserver}\) useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sglserver2008r2group
SQLSERVERAGENT, "C: ¥Program
Files\(\)HA\(\)Process\(\)Saver\(\)\(\)scriptf\(\)\(\)e\(\)restart\(\) sqlserver\(\) useagent.bat",86400,3,Continue,Service;Group\(\)Tag\(\)=sglserver\(\)2008r2group\(\)
MSSQLFDLauncher, "C: \times \text{Program} Files \times \text{HA}\times \text{ProcessSaver} \times \text{scriptfile} \text{\text{Yrestart} fdlauncher.bat", 86400, 3, Continue, Service
MSSQLServerOLAPService, "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Coptinue,Service
```

```
名前つきインスタンスのサービスを監視する場合は
各行の Process/ServiceName をそれぞれ以下のように変更してください。
 MSSQLSERVER
                          MSSQL$【インスタンス名】
 SQLSERVERAGENT
                          SQLAgent$【インスタンス名】
 MSSQLFDLauncher
                          MSSQLFDLauncher$ 【インスタンス名】
 MSSOLServerOLAPService
                          MSOLAP$【インスタンス名】
                      \rightarrow
                          ReportServer$【インスタンス名】
 ReportServer
                      \rightarrow
```

16-2-3. 再起動スクリプト

本 スクリプトは既定のインスタンスで作成されたサービスを起動します。 名前つきインスタンスで作成されたサービスを起動するにはスクリプトを変更する必要があ ります。

 MSSQLSERVER <restart_sqlserver.bat> 本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver2012_instance_notuse_agent> で使用します。



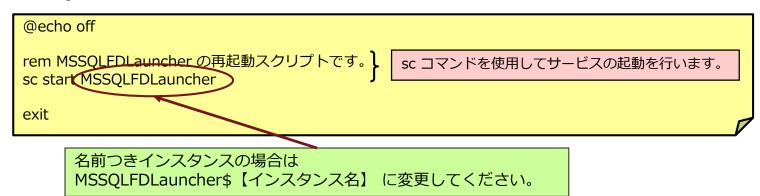
16-2-3. (続き)

 MSSQLSERVER <restart sqlserver useagent.bat> 本スクリプトは Pfile <sample sqlserver2012 instance use agent> で使用します。

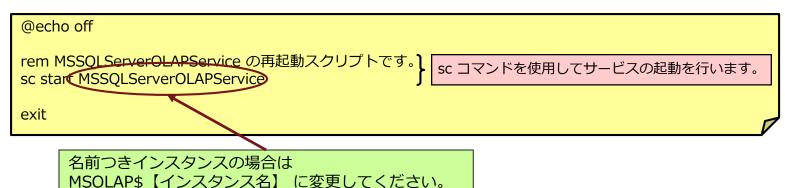


16-2-3. (続き)

MSSQLFDLauncher <restart_fdlauncher.bat>



MSSQLServerOLAPService<restart olapservice.bat>



16-3. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- ・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller ReportServer サービスの監視については、コメントアウトしています。 SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller ReportServer サービスを使用、監視する場合は、Pfile を書き換えて、 コメントインしてください。
- ・SQLSERVERAGENT サービスを使用する場合、 SQLSERVERAGENT サービス が MSSQLSERVER サービスに依存します。ProcessSaver による監視が不要な場合は Pfile から削除してください。

以降、システム一意のサービスの監視を削除する場合の Pfile の書き換え手順を説明します。 インスタンスのサービスの監視を削除する場合は、使用する Pfile

<C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample sqlserver2012 instance notuse agent> または

<C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample sqlserver2012 instance use agent> を 「16-3-2, Pfile の読み込み」 以降の手順にしたがい編集してください。

Pfile 書き換え手順

16-3-1. Pfile の直接編集



16-3-2. Pfile の読み込み



16-3-3. 監視しないサービスの削除



16-3-4. Pfile の保存

16-3-1. Pfile の直接編集

(1) SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controllerを監視する場合、テキストエディタなどで Pfile <C:\program Files\processSaver\proces\processSaver\proces\proc 開き、 SQLBrowser、 SQL Server Distributed Replay Client、 SQL Server Distributed

PARAM

MsgCheckInterval 5 MonitorInterval

"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\sglserver2012 system.dmp" DumpFileName

Replay Controller の行の # を削除し、コメントインしてください。

UpMessageReduceMode disable

PENT

を削除してコメントインしてください。

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; Clea rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime:RestartFimeOut;PnameFullMatch

#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service

SQLWriter, "C: \text{\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\exitt{\$\text{\$\}\exitt{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{

MsDtsServer110, "C: *Program Files*HA*ProcessSaver** scriptfile*restart msdtsserver110.bat".86400.3.Continue.Service

SOL Server Distributed Replay Client, "C:\Program

Mes¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_distributedreplayclient.bat",86400,3,Continue,Service

SQL Server Distributed Replay Controller, "C:\Program

esyHAyProcessSaveryscriptfileyrestart distributedreplaycontroller.bat",86400,3,Continue,Service

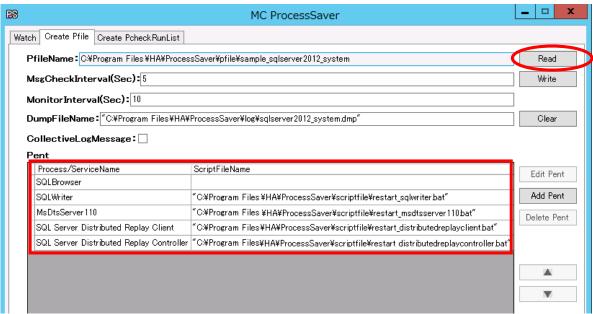
SOLBrows er サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで1分後に再起動されるため、 本テンプレートの SQLBrowser の行をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。 SQLBrows er を監視する場合で、消滅検知後すぐに RetryOver にしたくない場合は、SQLBrowser サービスの [プロパティ] から 再起動時間を変更していただくか、SQLBrow s er サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、 または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。

RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために SQLBrowser サービスが 1分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

16-3-2. Pfile の読み込み

『Create Pfile』で Read を押して Pfile <C:\frac{\text{YProgram Files}\frac{\text{HA}\frac{\text{YProcess}}{\text{Saver}\frac{\text{File}}{\text{sample sqlserver}} \text{2012 system>} の読み込みを行ってください。

下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、 Page 16 の手順により Pfile を再取得し、もう一度やり直してください。



Create Pfile 図21

16-3-3. 監視しないサービスの削除

『Create Pfile』 の [Pent] から 監視しないサービスを選択し、 Delete Pent を押して削除してください。

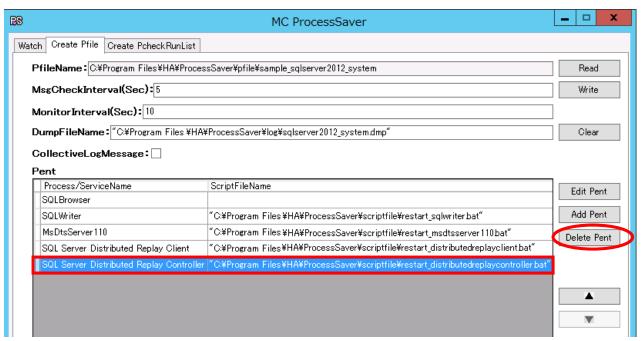


図22 **Create Pfile**

16-3-4. Pfile の保存

(1) 『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\frac{\text{Y} \text{Program Files} \frac{\text{H}}{\text{A}} \frac{\text{P} \text{Process} \text{Saver} \frac{\text{F} \text{file} \frac{\text{V}}{\text{Saver}} \text{Program Files} \frac{\text{V}}{\text{H}} \text{Saver} \text{V} \text{Saver} \frac{\text{V}}{\text{Files}} \text{V} \text{Saver} \text{Saver} \text{V} \te を保存してください。

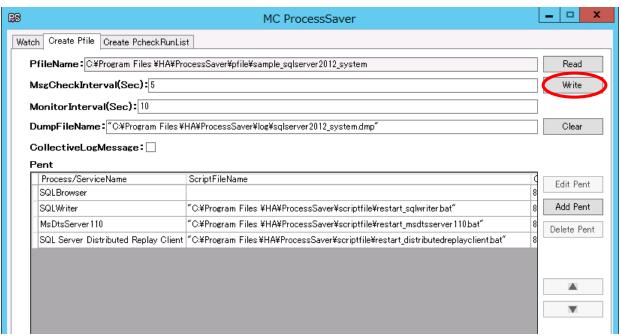


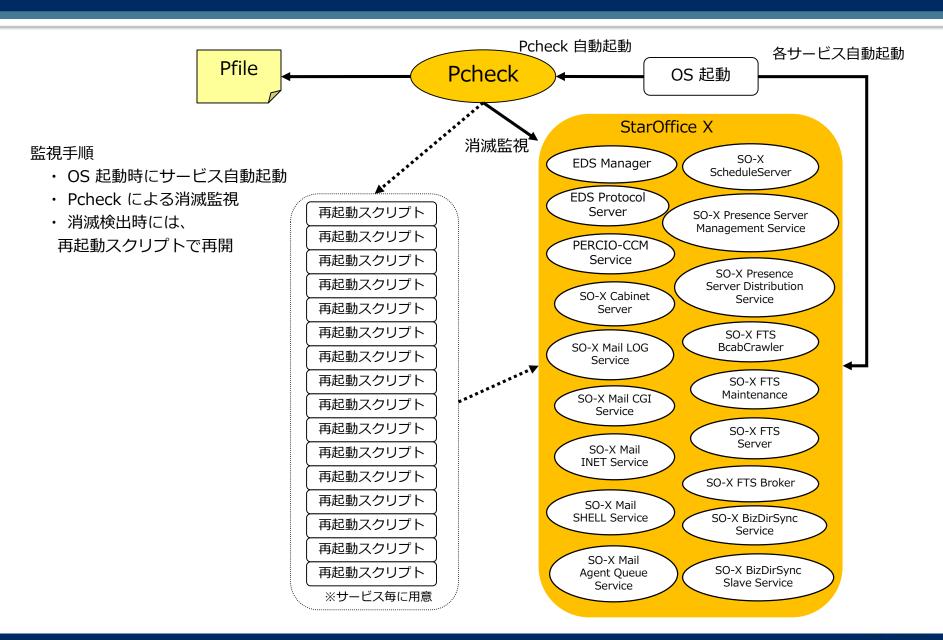
図23 **Create Pfile**

17. StarOffice の監視事例

17-1. 概要

本事例は StarOffice X Standard V4.0 を使用しています。 StarOffice X にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。

表示名	サービス名
EDS Manager	EDS Manager
EDS Protocol Server	EDS Protocol Server
PERCIO-CCM Service	PERCIO-CCM service
SO-X Cabinet Server	ObjectManager
SO-X Mail LOG Service	mlog
SO-X Mail CGI Service	cgid
SO-X Mail INET Service	minetd
SO-X Mail SHELL Service	mshd
SO-X Mail Agent Queue Service	somail_agd
SO-X ScheduleServer	StarOffice FormServer
SO-X Presence Server Management Service	PMManager
SO-X Presence Server Distribution Service	PMDistributor
SO-X FTS BcabCrawler	SOXFTSBcabCrawler
SO-X FTS Maintenance	SOXFTSMaintenance
SO-X FTS Server	SOXFTSServer
SO-X FTS Broker	SOXFTSBroke
SO-X BizDirSync Service	so_edsyncd
SO-X BizDirSync Slave Service	BDSyncSlave_Service



17-2. Pfile

Pfile <sample staroffice>

本 Pfile は 全てのサービスを監視する設定となっています。

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                         5
MonitorInterval
                       10
DumpFileName
                          "C:\footnote{\text{Program Files}HA}\text{ProcessSaver}\log\footnote{\text{staroffice dump}}"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTa
g;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
EDS Manager, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{restart SO EDSManager.bat", 86400, 3, Continue, Service
EDS Protocol Server, "C: ¥Program
Files\(\pmax\)HA\(\pmax\)ProcessSaver\(\pmax\)scriptfile\(\pmax\)restart SO EDSProtocol.bat",86400,3,Continue,Service
PERCIO-CCM service, "C: ¥Program
Files\(\pmax\)HA\(\pmax\)ProcessSaver\(\pmax\)scriptfile\(\pmax\)restart_SO_PERCIO.bat",86400,3,Continue,Service
ObjectManager, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart_SO_Cabinet.bat"}, 86400, 3, Continue, Service
mlog, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart SO MailLOG.bat", 86400, 3, Continue, Service
cgid, "C: \text{Yrogram Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{scriptfile} \text{\text{restart_SO_MailCGI.bat", 86400, 3, Continue, Service}
minetd,"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart SO MailINET Service.bat",86400,3,Continue,Service
次ページへ続く
```

続き

mshd,"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart_SO_MailSHELL.bat",86400,3,Continue,Service somail agd, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\Scriptfile\Frestart SO MailAgentQueue.bat", 86400, 3, Continue, Service StarOffice FormServer, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart SO Schedule.bat"}, 86400, 3, Continue, Service PMManager, "C: \(\frac{4}{2}\)Program Files\(\frac{4}{1}\)HA\(\frac{4}{2}\)ProcessSaver\(\frac{4}{2}\)scriptfile\(\frac{4}{2}\)restart SO PSMS.bat", 86400, 3, Continue, Service PMDistributor, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart SO PSDS.bat",86400,3,Continue,Service SOXFTSBcabCrawler, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart_SO_FTSBC.bat", 86400, 3, Continue, Service SOXFTSMaintenance, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart SO FTSMaintenance.bat", 86400, 3, Continue, Service SOXFTSServer, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{Frsserver.bat", 86400, 3, Continue, Service SOXFTSBroker, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart SO FTSBroker.bat"}, 86400, 3, Continue, Service so edsyncd, "C: \Program Files\HA\ProcessSaver\Scriptfile\Frestart SO BDS.bat", 86400, 3, Continue, Service BDSyncSlave Service, "C: \(\frac{2}{2}\) Program Files\(\frac{2}{2}\) HA\(\frac{2}{2}\) ProcessSaver\(\frac{2}{2}\) Scriptfile\(\frac{2}{2}\) restart SO BDSSlave.bat", 86400, 3, Continue, Service



17-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

EDS Manager <restart SO EDSManager.bat>

```
@echo off
rem EDS Manager の再起動スクリプトです。
net start "EDS Manager"
exit
```

EDS Protocol Server < restart SO EDSProtocol.bat >

```
@echo off
rem EDS Protocol Server の再起動スクリプトです。
net start "EDS Protocol Server"
exit
```

PERCIO-CCM Service < restart SO PERCIO.bat >

```
@echo off
rem PERCIO-CCM Service の再起動スクリプトです。
net start "PERCIO-CCM Service"
exit
```

ObjectManager (SO-X Cabinet Server) < restart_SO_Cabinet.bat>

```
@echo off
rem SO-X Cabinet Server の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Cabinet Server"
exit
```

mlog (SO-X Mail LOG Service) <restart_SO_MailLOG.bat>

```
@echo off
rem SO-X Mail LOG Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail LOG Service"
exit
```

cgid (SO-X Mail CGI Service) <restart_SO_MailCGI.bat>

```
@echo off
rem SO-X Mail CGI Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail CGI Service"
exit
```

minetd (SO-X Mail INET Service) < restart_SO_MailINET_Service.bat >

```
@echo off
rem SO-X Mail INET Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail INET Service"
exit
```

mshd (SO-X Mail SHELL Service) < restart SO MailSHELL.bat >

```
@echo off
rem SO-X Mail SHELL Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail SHELL Service"
exit
```

somail_agd (SO-X Mail Agent Queue Service) < restart_SO_MailAgentQueue.bat>

```
@echo off
rem SO-X Mail Agent Queue Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail Agent Queue Service"
exit
```

StarOffice FormServer (SO-X ScheduleServer) < restart_SO_Schedule.bat>

```
@echo off
rem SO-X ScheduleServer の再起動スクリプトです。
net start "SO-X ScheduleServer"
exit
```

PMManager (SO-X Presence Server Management Service) <restart_SO_PSMS.bat>

```
@echo off
rem SO-X Presence Server Management Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Presence Server Management Service"
exit
```

PMDistributor (SO-X Presence Server Distribution Service) <restart_SO_PSDS.bat>

```
@echo off
rem SO-X Presence Server Distribution Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Presence Server Distribution Service"
exit
```

SOXFTSBcabCrawler (SO-X FTS BcabCrawler) < restart_SO_FTSBC.bat >

```
@echo off
rem SO-X FTS BcabCrawler の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS BcabCrawler"
exit
```

SOXFTSMaintenance (SO-X FTS Maintenance) < restart_SO_FTSMaintenance.bat >

```
@echo off
rem SO-X FTS Maintenance の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS Maintenance"
exit
```

SOXFTSServer (SO-X FTS Server) < restart_SO_FTSServer.bat>

```
@echo off
rem SO-X FTS Server の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS Server"
exit
```

SOXFTSBroker (SO-X FTS Broker) < restart SO FTSBroker.bat >

```
@echo off
rem SO-X FTS Broker の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS Broker"
exit
```

so edsyncd (SO-X BizDirSync Service) < restart SO BDS.bat >

```
@echo off
rem SO-X BizDirSync Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X BizDirSync Service"
exit
```

BDSyncSlave_Service (SO-X BizDirSync Slave Service) <restart_SO_BDSSlave.bat>

```
@echo off
rem SO-X BizDirSync Slave Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X BizDirSync Slave Service"
exit
```

17-4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。

Pfile 書き換え手順

17-4-1. Pfile の直接編集



17-4-2. Pfile の読み込み



17-4-3. 監視しないサービスの削除



17-4-4. Pfile の保存

17-4-1. Pfile の直接編集

(1) テキストエディタなどで Pfile <C:\(\perprox\) Program Files\(\perprox\) HA\(\perprox\) ProcessSaver\(\perprox\) pfile\(\perprox\) staroffice> を開き、編集してください。

PENT

Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearCmd; IncludeString s:RestartWaitTime:RestartTimeOut:PnameFullMatch

EDS Manager, "C: ¥Program Files ¥HA¥ProcessSaver ¥script file ¥restart SO EDS Manager, bat", 86400, 3, Continue, Service EDS Protocol Server, "C: Program Files HA Process Saver Script file Frestart SO EDS Protocol. bat", 86400, 3, Continue, Service PERCIO-CCM service, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart SO PERCIO.bat",86400,3,Continue,Service ObjectManager, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{testart SO Cabinet.bat", 86400, 3, Continue, Service mlog, "C: ¥Program Files ¥HA¥ProcessSaver ¥script file ¥restart SO MailLOG. bat", 86400, 3, Continue, Service cgid."C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart SO MailCGI.bat".86400.3.Continue.Service minetd, "C: ¥Program Files ¥HA ¥Process Saver ¥script file ¥restart SO Mail INET Service.bat", 86400, 3, Continue, Service mshd."C:\text{\text{Y}}Program Files\text{\text{HA}}\text{\text{P}}ProcessSaver\text{\text{s}}criptfile\text{\text{F}}restart SO MailSHELL.bat",86400,3,Continue,Service somail agd, "C: \Program Files\HA\ProcessSaver\Scriptfile\Frestart SO MailAgentQueue.bat", 86400, 3, Continue, Service StarOffice FormServer, "C: \text{Program Files} \text{HA} \text{ProcessSaver} \text{\text{scriptfile}} \text{\text{restart SO Schedule.bat"}, 86400, 3, Continue, Service PMManager, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart SO PSMS.bat",86400,3,Continue,Service PMDistributor, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart SO PSDS.bat",86400,3,Continue,Service SOXFTSBcabCrawler, "C: \text{Program Files\text{\text{HA\text{\text{ProcessSaver\text{\text{\text{scriptfile\text{\text{\text{\text{\text{\text{}}}}}}}}. bat",86400,3,Continue,Service SOXFTSMaintenance, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\Frestart SO FTSMaintenance.bat", 86400, 3, Continue, Service SOXFTSServer, "C: ¥Program Files ¥HA ¥Process Saver ¥script file ¥restart SO FTSServer. bat", 86400, 3, Continue, Service SOXFTSBroker, "C: \times \text{Program Files \text{\text{HA}}ProcessSaver \text{\texi}\text{\text{\text{\text{\text{\texi}\text{\text{\text{\text{\text{\text{\texi{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\tex so edsyncd, "C: \text{Program Files\text{\text{HA\text{\text{\text{HA\text{\tin}}\text{\tin}\text{\tet BDSyncSlave_Service, "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\scriptfile\restart_SO_BDSSlave.bat", 86400, 3, Continue, Service

17-4-2. Pfile の読み込み

『Create Pfile』で Read を押して Pfile <C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\sample staroffice> の読み込みを 行ってください。

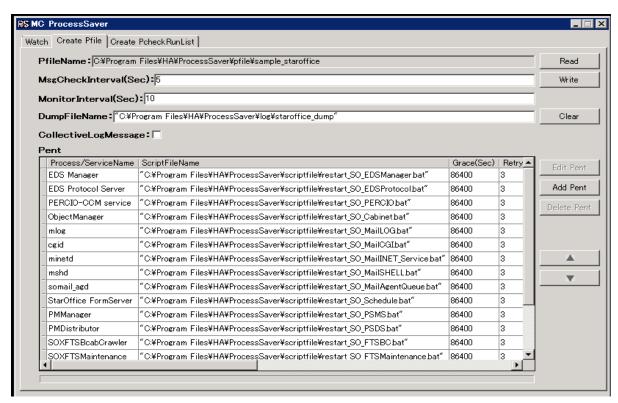


図24 **Create Pfile**

17-4-3. 監視しないサービスの削除

『Create Pfile』 の [Pent] から監視しないサービスを選択し、 (1)Delete Pent を押して削除してください。

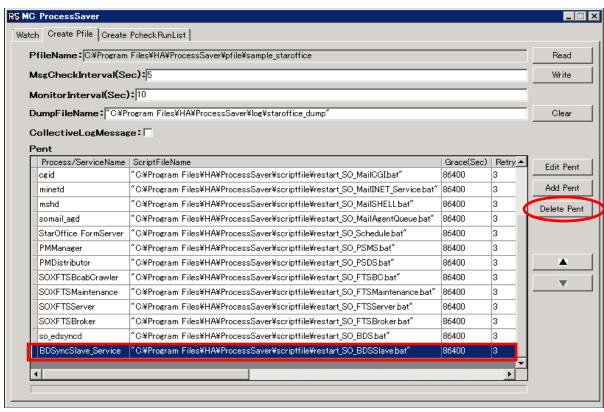


図25 『Create Pfile』

17-4-4. Pfile の保存

『Create Pfile』で Write を押して Pfile <C:\program Files\processSaver\pfile\pfile\sample staroffice > を保存してください。

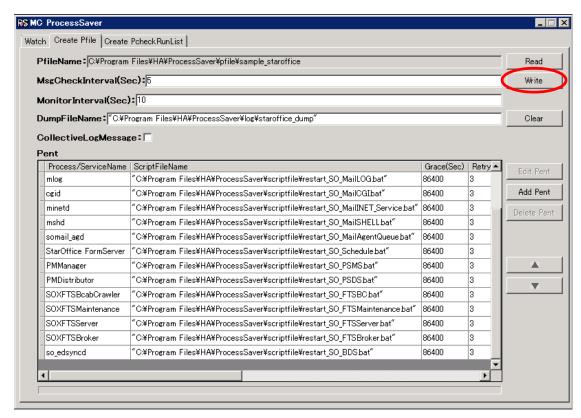


図26 **Create Pfile**

18. IIS のストール監視事例

18-1. 概要

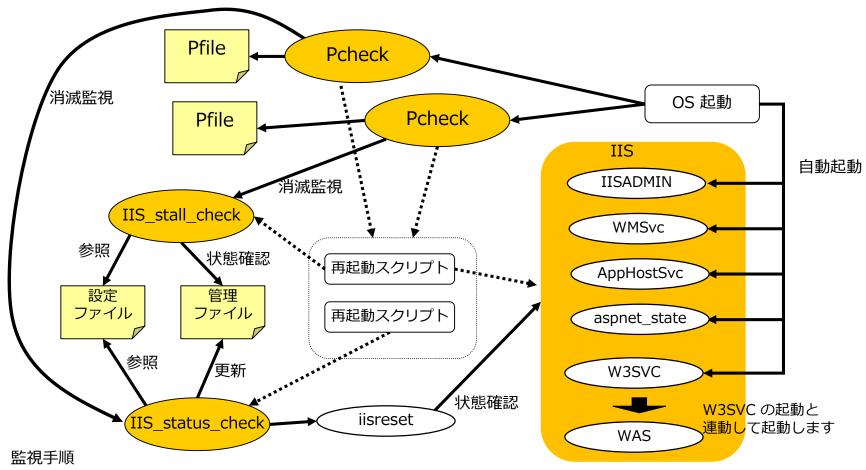
IIS のストール監視を以下の方式で行います。

IIS のステータス参照コマンド(iisreset.exe)を用いて、定期的に IIS の運用状態を確認し、 管理ファイルを更新するスクリプト(IIS status check.vbs)と 管理ファイルの更新を定期的に監視し、一定時間更新されていない場合に 終了するスクリプト(IIS stall check.vbs)を起動します。

ProcessSaver は IIS stall check.vbs の消滅を監視することでストール監視を行います。 また、IIS status check.vbs が何らかの原因により消滅した場合に、誤ってストールと 判断しないよう IIS status check.vbsの消滅も監視します。



(続き) 18.



- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- ・ストール監視スクリプト (IIS status check、IIS stall check) を起動
- · Pcheck によるスクリプトの消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで IIS のサービスとストール監視スクリプトを再開

18-2. Pfile

```
Pfile <sample_pfile_IIS_stall>
  本 Pfile は IIS_stall_check.vbs を監視する Pfile です。
```

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                     5
MonitorInterval
                   10
DumpFileName
                     "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\pfile_IIS_stall_dump"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\bin\IIS stall check.vbs", "C:\Program
Files\(\)HA\(\)Process\(\)Saver\(\)scriptfile\(\)restart\(\) IIS\(\) stall\(\) check.bat",86400,3,Continue,Process\(\)PnameFullMatch=disable
```

(続き) 18.

Pfile <sample_pfile_IIS_script>

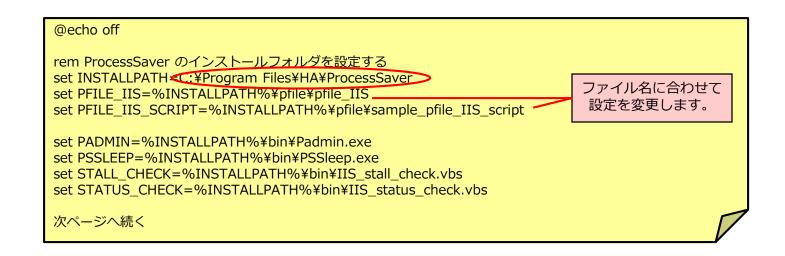
本 Pfile は IIS status check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
MonitorInterval
                                                                                       10
DumpFileName
                                                                                                "C:\footnote{\text{Program Files}HA}\text{ProcessSaver}\left\text{log}\text{pfile_IIS_script_dump}"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:\frac{Y}{P}rogram Files\frac{Y}{H}A\frac{Y}{P}rocessSaver\frac{Y}{D}in\frac{Y}{I}IS status check.\frac{V}{D}s", "C:\frac{Y}{P}rogram
Files\(\)\(Files\(\)\(HA\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Frocess\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Froces\(\)\(Fro
```

18-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- IIS stall check.vbs <restart IIS stall check.bat>
 - 本スクリプトは IIS stall check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
 - INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダを設定してください。 デフォルトは、 C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。
 - PFILE IIS には IIS のサービス死活監視の設定ファイルを設定してください。 監視しない場合、設定変更は不要です。
 - PFILE IIS SCRIPT には IIS status check.vbs の監視設定ファイルを設定してください。



```
rem IIS のサービスを再起動するため IIS の死活監視を行っている場合
rem 再起動処理中は監視を停止する
:RETRY STOP
"%PADMIN%" -f "%PFILE IIS%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
  "%PSSLEEP%" 1
                                      ProcessSaver で IIS サービスの
  goto RETRY STOP
                                      死活監視を行っていない場合は
                                      コメントアウト or 削除します。
rem 念のため MsgCheckInterval秒待つ
"%PSSLEEP%" 5
rem IIS 関連サービスを再起動
iisreset /restart
net stop aspnet_state
net start aspnet_state
net stop AppHostSvc
net start AppHostSvc
net stop WMSVC
net start WMSVC
rem 停止した IIS の死活監視を再開する
rem 受付済み命令の実行待ちにより、再開に失敗する場合があるので失敗時はリトライする
:RETRY START
"%PADMIN%" -f "%PFILE IIS%" -c Start
                                     ProcessSaver で IIS サービスの
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
                                     死活監視を行っていない場合は
  "%PSSLEEP%" 1
                                     コメントアウト or 削除します。
 goto RETRY_START
次ページへ続く
```

```
rem IIS ステータス確認スクリプトを再起動するため、スクリプトの監視を一時停止
:RETRY STOP 2
"%PADMIN%" -f "%PFILE IIS SCRIPT%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
  "%PSSLEEP%" 1
  goto RETRY_STOP_2
rem IIS ステータス確認スクリプトを再起動
wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like \times"%%IIS status check.vbs%%\times" delete
start cscript "%STATUS CHECK%"
rem IIS stall 監視スクリプトを実行
start cscript "%STALL CHECK%"
rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機
"%PSSLEEP%" 10
rem IIS ステータス確認スクリプトの監視を再開
:RETRY RESTART
"%PADMIN%" -f "%PFILE_IIS_SCRIPT%" -c Restart
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
  "%PSSLEEP%" 1
  goto RETRY_RESTART
exit
```

- IIS status check.vbs <restart IIS status check.bat>
 - 本スクリプトは IIS status check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
 - INSTALL PATH には ProcessSaver のインストールフォルダを設定してください。 デフォルトは、C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。

@echo off rem ProcessSaver のインストールフォルダを設定する set INSTALLPATH :: YProgram Files YHA YProcess Saver set STATUS_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_status_check.vbs set PSSLEEP=%INSTALLPATH%\bin\begin\begin{equation} PSSleep.exe rem IIS ステータス確認スクリプトを再起動(念のため、プロセス停止処理も実行) wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like \times"%%IIS_status check.vbs%%\times" delete start cscript "%STATUS CHECK%" rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機 "%PSSLEEP%" 10 exit

18-4. ストール監視スクリプトの設定

IIS check.conf

ファイルの更新をチェックする間隔 STALL CHECK INTERVAL 600 # ステータスをチェックしファイルを更新する間隔 # STALL CHECK INTERVAL より短い時間を設定すること STATUS CHECK INTERVAL 10

-STALL CHECK INTERVAL

IIS stall check.vbs が管理ファイルの更新を確認する間隔です。この時間、管理ファイルが 更新されていない場合にストールしていると判断します。

デフォルトは600秒です。

-STATUS CHECK INTERVAL

IIS status check.vbs が IIS のステータスを確認し管理ファイルを更新する間隔です。 デフォルトは 10秒です。



IIS stall check.vbs

管理ファイルの更新を定期的に監視するスクリプトです。

- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダを指定してください。 デフォルトは、 C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。

Option Explicit On Error Resume Next '各ファイル名の設定 Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile installPath = "C:\(\frac{2}{2}\)Program Files\(\frac{2}{2}\)HA\(\frac{2}{2}\)ProcessSaver configFile = installPath & "YbinYIIS_check.conf" updateFile = installPath & "\u00e4bin\u00e4IIS_staus" logFile = installPath & "¥log¥IIS_stall.log" rotatelogFile = installPath & "¥log¥IIS stall.log.save1" Dim objFSO, file, log, currentlog, interval, oldDate, blnFirst, strLine, index, srtArray interval = 600 * 1000blnFirst = True 以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)

IIS status check.vbs

定期的に IIS の運用状態を確認し、管理ファイルを更新するスクリプトです。

- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダを指定してください。 デフォルトは、 C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。

Option Explicit On Error Resume Next '各ファイル名の設定 Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile installPath = "C:\(\frac{1}{2}\)Program Files\(\frac{1}{2}\)HA\(\frac{1}{2}\)ProcessSaver configFile = installPath & "YbinYIIS_check.conf" updateFile = installPath & "\u00e4bin\u00e4IIS_staus" logFile = installPath & "¥log¥IIS_status.log" rotatelogFile = installPath & "¥log¥IIS status.log.save1" Dim interval, objFSO, file, log, currentlog, strLine, index, srtArray interval = 10 * 1000 以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)

IIS script start.bat

ストール監視を開始するためのバッチファイルです。

OS 起動後、自動で監視を行いたい場合は、タスクスケジューラに本バッチを登録してください。

- INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダを設定してください。 デフォルトは、C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。

@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダを設定する set INSTALLPATH=C:\(\frac{1}{2}\)Program Files\(\frac{1}{2}\)HA\(\frac{1}{2}\)ProcessSaver

set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe

REM ステータス確認スクリプト実行 start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_status_check.vbs"

REM 念のため 10秒待機 "%PSSLEEP%" 10

REM ストール監視スクリプト実行 start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_stall_check.vbs"

IIS_stall_check_stop.bat

IIS_stall_check.vbs を停止するバッチファイルです。

@echo off

rem IIS stall 監視スクリプトを停止する(プロセス停止) wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like \times"\%%IIS_stall_check.vbs\%\times" delete

IIS_status_check_stop.bat

IIS_status_check.vbs を停止するバッチファイルです。

@echo off

rem IIS ステータス確認スクリプトを停止する(プロセス停止) wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like \times"%%IIS_status_check.vbs%%\times" delete

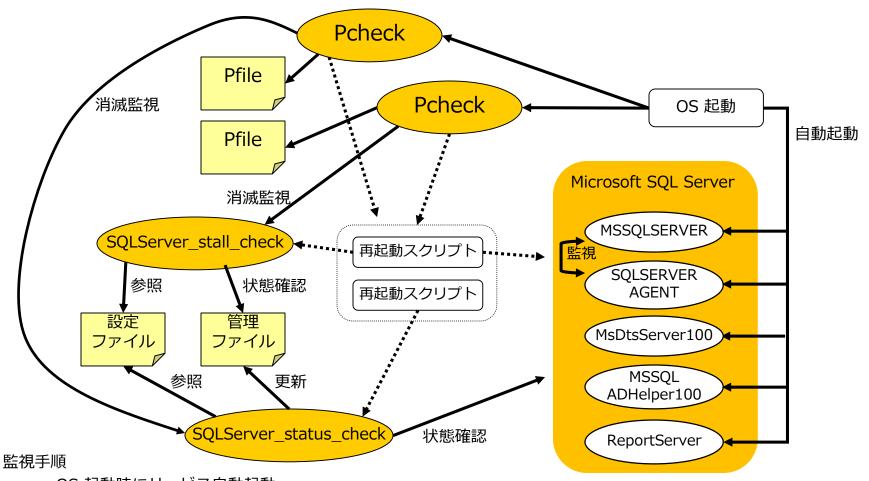
19. Microsoft SQLServer のストール監視事例

19-1. 概要

Microsoft SOL Server のストール監視を以下の方式で行います。

SQLServer の管理テーブル(sys.databases 表)を参照してデータベースの状態を 定期的に確認し、管理ファイルを更新するスクリプト(SQLServer status check.vbs)と 管理ファイルの更新を定期的に監視し、一定時間更新されていない場合に 終了するスクリプト(SOLServer stall check.vbs)を起動します。

ProcessSaver は SQLServer stall check.vbs の消滅を監視することで ストール監視を行います。また、 SQLServer status check.vbs が何らかの原因により 消滅した場合に、誤ってストールと判断しないよう SQLServer status check.vbs の 消滅も監視します。



- ・ OS 起動時にサービス自動起動
- ・ストール監視スクリプト (SQLServer status check、SQLServer stall check) を起動
- · Pcheck によるスクリプトの消滅監視
- ・ 消滅検出時には、再起動スクリプトで SQLServer のサービスとストール監視スクリプトを再開

19-2. Pfile

Pfile <sample_pfile_SQLServer_stall> 本 Pfile は SQLServer_stall_check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
                      5
MonitorInterval
                    10
DumpFileName
                      "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\pfile_SQLServer_stall_dump"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\bin\SQLServer stall check.vbs", "C:\Program
Files\(\)HA\(\)Process\(\)Saver\(\)scriptfile\(\)Frestart\(\) SOL\(\)Server\(\) stall\(\) check.bat\(\),86400,3,Continue,Process\(\)PnameFullMatch=disable
```

Pfile <sample_pfile_SQLServer_script>

本 Pfile は SQLServer status check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsqCheckInterval
MonitorInterval
                    10
DumpFileName
                       "C:\Program Files\HA\ProcessSaver\log\pfile_SQLServer_script_dump"
UpMessageReduceMode disable
##### PENT #####
##
Process/ServiceName, ScriptFileName, Grace(Sec), RetryCountMax, RetryOverAction, CheckType; MinProcCount; GroupTag; ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:\Program Files\HA\ProcessSaver\bin\SQLServer status check.vbs", "C:\Program
Files\(\)HA\(\)Process\(\)Saver\(\)\(\)scriptfile\(\)\(\)restart\(\)SQL\(\)Server\(\)status\(\)check\(\).bat\(\)'\(\),1\(\),Continue\(\),Process\(\);PnameFull\(\)Match\(\)=disable
```

19-3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- SQLServer stall check.vbs <restart SQLServer stall check.bat>
 - 本スクリプトは SOLServer stall check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
 - INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダを設定してください。 デフォルトは、 C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。
 - PFILE SQLSERVER には SQLServer のサービス死活監視の設定ファイルを設定してください。 監視しない場合、設定変更は不要です。
 - PFILE SOLSERVER SCRIPT には SOLServer status check.vbs の監視設定ファイルを 設定してください。



```
rem SQLServer サービスを再起動するため SQLServer の死活監視を行っている場合、
rem 再起動処理中は監視を停止する
:RETRY STOP
"%PADMIN%" -f "%PFILE SQLSERVER%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
                                            ProcessSaver で SQLServer の
  "%PSSLEEP%" 1
                                           死活監視を行っていない場合は
  goto RETRY STOP
                                           コメントアウト or 削除します。
rem 念のため MsgCheckInterval秒待つ
"%PSSLEEP%" 5
rem SOLServer サービスを再起動
net stop MSSQLSERVER
net start MSSOLSERVER
rem 停止した SQLServer の死活監視を再開する
rem 受付済み命令の実行待ちにより、再開に失敗する場合があるので失敗時はリトライする
:RETRY_START
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER%" -c Start
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
                                            ProcessSaver で SQLServer の
  "%PSSLEEP%" 1
                                            死活監視を行っていない場合は
  goto RETRY_START
                                            コメントアウト or 削除します。
次ページへ続く
```

```
rem SQLServer ステータス確認スクリプトを再起動するため、スクリプトの監視を一時停止
:RETRY STOP 2
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER_SCRIPT%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
  "%PSSLEEP%" 1
  goto RETRY STOP 2
rem SQLServer ステータス確認スクリプトを再起動
wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like
¥"%%SQLServer status check.vbs%%¥"" delete
start cscript "%STATUS CHECK%"
rem SOLServer stall 監視スクリプトを実行
start cscript "%STALL CHECK%"
rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機
"%PSSLEEP%" 10
rem SQLServer ステータス確認スクリプトの監視を再開
:RETRY RESTART
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER_SCRIPT%" -c Restart
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
  "%PSSLEEP%" 1
  goto RETRY_RESTART
exit
```

- SQLServer status check.vbs <restart SQLServer status check.bat>
 - 本スクリプトは SOLServer status check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
 - INSTALL PATH には ProcessSaver のインストールフォルダを設定してください。 デフォルトは、C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。

@echo off rem ProcessSaver のインストールフォルダを設定する set INSTALLPATH=C:\(\frac{1}{2}\)Program Files\(\frac{1}{2}\)HA\(\frac{1}{2}\)ProcessSaver set STATUS CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer status check.vbs set PSSLEEP=%INSTALLPATH%\bin\begin\begin{equation} PSSleep.exe rem SOLServer ステータス確認スクリプトを再起動(念のため、プロセス停止処理も実行) wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like ¥"%%SQLServer_status_check.vbs%%¥"" delete start cscript "%STATUS_CHECK%" rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機 "%PSSLEEP%" 10 exit

19-4. ストール監視スクリプトの設定

SOLServer check.conf

```
# ファイルの更新をチェックする間隔
STALL CHECK INTERVAL 600
# DATABASE のステータスをチェックしファイルを更新する間隔
# STALL CHECK INTERVAL より短い時間を設定すること
STATUS CHECK INTERVAL 10
# ステータスをチェックする DATABASE が存在するインスタンス名
# 既定のインスタンスの場合は、サーバ名 のみ
# その他の場合は、サーバ名¥インスタンス名 を設定すること
SERVER NAME SERVER01
# ステータスをチェックするDATABASE のリスト
# 複数チェックする場合は、","を用いて設定する
# (例) Database1 とDatabase2 をチェックする場合
     DATABASE_LIST Database1, Database2
DATABASE_LIST Database1, Database2
# 異常として扱う DATABASE のステータス
# 複数指定する場合は、","を用いて設定する
# (例) OFFLINE とEMERGENCY をチェックする場合
     ERROR DB STATUS OFFLINE, EMERGENCY
#ERROR DB STATUS OFFLINE, EMERGENCY
# ログをローテートするサイズ(KB)
# 指定したサイズを超えるとログファイルをローテートする
LOG LOTATE SIZE 10000
```

-STALL CHECK INTERVAL

IIS stall check.vbs が管理ファイルの更新を確認する間隔です。この時間、管理ファイルが 更新されていない場合にストールしていると判断します。デフォルトは600秒です。

-STATUS CHECK INTERVAL

IIS status check.vbs がデータベースのステータスを確認し管理ファイルを更新する間隔です。 デフォルトは 10秒です。

-SERVER NAME

監視するデータベースが存在するインスタンス名を指定します。

-DATABASE LIST

ステータスを確認するデータベースを指定します。複数のデータベースを指定したい場合は、 ","(カンマ)で区切って指定してください。

-ERROR DB STATUS

取得したデータベースのステータスのうち異常と判定するステータスを指定します。

指定されたステータスを取得した場合、管理ファイルの更新を行いません。

異常と判定するステータスが複数ある場合は、","(カンマ)で区切って指定してください。

DATABASE LIST にて複数のデータベースを監視する設定となっている場合、

どれか1個のデータベースが異常と判定されると管理ファイルの更新を行いません。

設定しない場合、ステータスが取得できれば正常と判定します。デフォルトではコメントアウトされています。

-LOG LOTATE SIZE

SQLServer status check.vbs の内部ログのサイズを指定します。ログファイルが指定したサイズを超えた場合、 1世代分バックアップを行います。既にバックアップファイルが存在する場合、そのファイルは削除されます。 デフォルトは 10000KB です。

SQLServer stall check.vbs

管理ファイルの更新を定期的に監視するスクリプトです。

- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダを指定してください。 デフォルトは、 C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。

Option Explicit On Error Resume Next '各ファイル名の設定 Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile installPath < "C:\frac{\text{YProgram Files}\frac{\text{FROSSaver}}{\text{Total}} configFile = installPath & "YbinYSQLServer_check.conf" updateFile = installPath & & "¥bin¥SQLServer staus" logFile = installPath & & "¥log¥SQLServer_stall.log" rotatelogFile = installPath & "¥log¥SQLServer_stall.log.save1" Dim objFSO, file, log, currentlog, interval, oldDate, blnFirst, strLine, index, srtArray interval = 600 * 1000blnFirst = True 以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)

SQLServer status check.vbs

定期的に SQLServer の管理テーブル(sys.databases 表)を参照してデータベースの状態を確認し、 管理ファイルを更新するスクリプトです。

- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダを指定してください。 デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

Option Explicit On Error Resume Next '各ファイル名の設定 Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile installPath < "C:\frac{\text{YProgram Files}\frac{\text{YHA}\frac{\text{YProcessSaver}}{\text{Saver}}}{\text{Total Path }} configFile = installPath & "YbinYSQLServer_check.conf" updateFile = installPath & "\u00e4bin\u00a4SQLServer staus" logFile = installPath & "¥log¥SQLServer_status.log" rotatelogFile = installPath & "¥log¥SQLServer_status.log.save1" Dim serverName, dbListStr, interval, objFSO, file, log, currentlog, strLine, index, srtArray, lotateSize, errStatusStr interval = 10 * 1000lotateSize = 10000 * 1024 以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)

SQLServer script start.bat

SOLServer のストール監視を開始するためのバッチファイルです。

OS 起動後、自動で監視を行いたい場合は、タスクスケジューラに本バッチを登録してください。

- INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダを設定してください。 デフォルトは、 C:\Program Files\HA\ProcessSaver です。
- 本バッチは SOLServer のデータベースにアクセス可能なユーザで実行してください。

@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダを設定する set INSTALLPATH=C:\(\frac{1}{2}\)Program Files\(\frac{1}{2}\)HA\(\frac{1}{2}\)ProcessSaver

set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe

REM ステータス確認スクリプト実行 start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer status check.vbs"

REM 念のため 10秒待機 "%PSSLEEP%" 10

REM ストール監視スクリプト実行 start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer_stall_check.vbs"



SQLServer_stall_check_stop.bat

SQLServer_stall_check_stop.bat を停止するバッチファイルです。

@echo off

rem SQLServer stall 監視スクリプトを停止する(プロセス停止) wmic process where "name = \times" cscript.exe\times" and commandline like ¥"%%SQLServer stall check.vbs%%¥"" delete

SQLServer status check stop.bat

SQLServer_status_check_stop.bat を停止するバッチファイルです。

@echo off

rem SQLServer ステータス確認スクリプトを停止する(プロセス停止) wmic process where "name = \times"cscript.exe\times" and commandline like ¥"%%SQLServer status check.vbs%%¥"" delete

Orchestrating a brighter world

